支那啟發論

佐藤虎次郎著

發行所　橫濱新報社

Col. 222
Sa 9132

自序

支那開發論の一編は著者が隨時感懷せし所を以て之を筆にせしものにして、著者は、支那開發の到底本邦の職分たるべきを思ひ、執筆の際屢、之を朝野の名士に質して其批評を乞ひたり、故に此小冊子中收むる所の說は、著者單獨の意見にあらずして少なくも支那の實狀に通じ兼て本邦の國是を知る人士の首肯する所なり、思ふに支那開發の用意及び手段として說くべきもの決して此篇に盡くるにあらず、唯だ大概を擧ぐる而已、近來我邦に於て支那開發を言ふ者少からずと雖も、支那の國情は一種他邦と別異にして之が實際に通ずると容易ならず、而も一旦啓導の道を誤れば嗟臍の悔あらんとす、此間の誠意著者亦少しく篇中

38264

自序

に之を言へり、支那大官の外氣吸收に勉むる者漸く多きを加へたるは邦人が支那開發に手を下すの利便少からざると共に開發上の用意と手段とに於て深大の留心を要するを敎ふるものにあらずや、此篇を繙ゐて讀過一番の際著者が稍意を此に致せるを看取するの士あらば吾れ知己を得たりと言はん。

明治三十五年十二月

著者識

支那啓發論目次

○第一編

支那開發は邦人の天職なり……一

支那開發は支那國民の希望に應ずるもの……三

支那學制の改革……五

○第二編

支那開發は物質的なるべし……八

支那開發と物質的敎化……一〇

支那開發と復古の旗……一三

物質的敎化と復古主義……一五

基督敎徒の成功せし支那開發……一六

衛生的支那開發……一九

○第三編

支那開發論目次

支那開發は强ゆ可らず……二二
何故に上流より入るべきか……二四
西葡兩國の轍を踏む勿れ……二六
支那人に對する言行……二九
開發者の人選……三一
支那開發と列國……三三
滿韓交換の謬想……三五

○第四編

惡敎育の結果と支那開發……三七
代議政體論と支那開發……三九
支那學生の行動……四一

○第五編

漢學復興の必要……四四
再び漢學復興に就て……四五

三たび漢學復興に就て……四七
時文を疎斥するにあらず……四九
同敎國の實を示すべし……五一

○第六編

支那開發は永久的なるを要す……五四
支那開發は分業的なるを要す……五六
支那人となるの覺悟あるを要す……五八
支那開發に就ての覺悟……六〇
支那開發に對する獨得の方法……六一
舊文明の權化……六三

○第七編

今後の生絲事業……六五
支那開發と製絲業……六七
支那養蠶と開發事業……(一)……六九

支那開發論目次

支那養蠶と開發事業……(二)……七一
支那養蠶と開發事業……(三)……七三
支那養蠶と開發事業……(四)……七五
支那蠶業の第一着手……七九
○第八編
民食の共通より觀たる支那開發……八〇
日支兩國の共通生活……八一
○第九編
世界の大勢より觀たる支那開發の必要……八四
○附錄
亞細亞銀行設立の議……八六
再び亞細亞銀行の設立に就て……九〇

支那啓發論目次 終

支那啓發論

第一編

支那開發は邦人の天職なり

近來各國爭ふて領土の擴大に勉め米國の如きモンロー主義に據つて北米の地域を鞏固にするを以て趣意と爲せしもの近來は新に其の適用の區域を擴大して南米に及び更に太平洋上の各島に及べり亦以て世態の變を見るべし、是故に布哇を取り比律賓を取り營々として侵畧の方を講ずるに日も亦給らず英國の如きは古來侵畧主義の邦なるに近ごろ更に南阿一帶の地を畧取し其他露國獨逸皆な領土の擴大を思はざるなし、而も以上各國の爲す所ろは必ずしも民口地積を大にし徒に政治上の機務をして增加せしむるの意にわらず畢竟權力の衡爭上甲國の擴大に對して乙國も傍觀し難きものあり故に侵畧の流行は之を善意に解釋して一の自衛法に外ならずと雖も其趨勢の極まる所ろ日本亦不問に措く能はず、然れども我邦の主義及び現下の境遇は自から以上各國と異るものあるを以て直に英米の爲に倣ふて侵略を試むべきにあらず、然れども世界の潮流は以上畧叙するが如きに於て我亦何等自衛の術なきを得

ず而して此に唱道する支那開發は明に自衛法の第一要義たるを失はざるべし

余輩が支那開發を言ふ強ち支那今日の實狀を憐み之を援救するの道德眼よりのみ來れるにあらず、固より侵畧の意なき開發は其本然の性質に於て道德的のものたるや論なしと雖も國家存立の必要より思ひ來れるもの亦多からざるにあらず、抑も今日列强の爲す所皆彼が如く殺伐ならば本邦も勢ひ對抗の要策を建てざる可らざるは智者を待たずして知るべし故に余輩の支那開發を言ふは唇齒輔車の關係と云へる常套語の以外に支那開發の切要已む可らざるを認むるに由る、喩へば隣に敗屋あり之を我家に比して數十倍の廣きを有す若し夫れ天災地妖荐に到る事あらば我家獨り堅牢なりと云ふも敗屋の爲に何等不時の災厄なきを保し難し此時に於て我は唯だ隣家の朽敗憐れむべきが爲にのみ之を補修し之を支撐するに止らず則ち我家の自衛上より之を爲さゞるを得ず、況んや邦人が支那開發を爲すは邦人に取りて最も適當の職務にして歐米人が支那開發を爲すに比して遙に容易なるものあるをや唯だ邦人今に至るも鎖國の念全く銷せず國外の事とし云へば干係せざるを以て安全の道とす、斯の如きは自ら其天職を忘却せるものにして自衛の道より言ふも隣國に對するの義より言ふも終に宥す可らざるの事たり、余輩は思ふ米國が其侵畧的モンロー主義を揮はゞ本邦人は起つて自衛的モンロー主義を執り外來の急潮に對立して儼然不拔の堅城中に我が隣交の國を籠め共に立て萬年の長計を策すべしと、是れ實に邦人の天職なり

支那開發は支那國民の希望に應ずるもの

支那開發は啻に日本人の天職として鋭意之に從ふべきのみならず實に支那國民の希望に應順する者なり、支那國民中には今尙ほ守舊頑陋の徒ありて新事物を好まざるの傾あり廟堂の上にも化し易からざる大官多しと雖も全躰の風氣移動する所を見るに支那國民は旣に吳下の舊阿蒙に非ずして適當なる開發者が適當なる開發法を以て之を補導扶掖せば幾年の後には文化の民として世界列强の間に伍し一二野心ある邦をして一指をも染めざらしむるを得べく唯だ從來歐洲の宣敎師輩が支那を誤解し開發方法を誤りたる爲め頑冥の分子をして益々頑冥ならしめたる憾ありと雖も一方より言へば此事偶々本邦人の支那開發に倖せるものにして我れは歐洲人の覆轍に鑑みて更に良好なる開發方法を案出するの基を求め得べし、特に近來支那國民が漸く覺醒し來りて本邦人の爲に開發せらるゝを喜ぶの色あるは明白の事にして本邦人は官と言はず民と言はず一致戮力彼を佐け其をして自强の道を得せしめ我れ亦た藩墻を堅くするの方を講ずべし、曾て來朝せし載振貝子が小村外相の官邸に於て爲されし演說（明治三十五年九月中）の中にも兩國相賴つて將來の隆興を圖らんとを望むとの意頗る慇懃なりき、或は支那

人は辭令に巧なるに因り本邦への來遊者皆な此の如き語句を弄するも彼國民の本意果して之と等しきとを得るや否や、我れ若し支那開發を以て天職なりと思ひ奮勉して之に從ふも彼國民が尙ほ此に悟り到らずんば我は勞して効なきのみならず其効或は意外の者の手に收められんと、是れ動もすれば邦人の口より出づべき疑問なるも是等は深く意に介するに足らず假令此事が支那國民の眞意にあらずして我れの自負心より出づる一種の幻影なりとするも支那が日本の手に由りて開發せられざる可らず又た開發せらるゝを利益とするは誰人も見て誤らざる所、則ち若し支那國民が我れの開發を待つの言辭が我れの自負心より出づる一種の幻影なりとするも我れは進んで開發の實績を擧げ以て彼國民をして眞に日本人の開發に待たざるべからざるの道理を悟入せしむべし曷ぞ屑々として疑ひ拘々として惑ひ以て自ら爲すべきの道を爲さゞるを要せん、況や若し彼國民が我れに依賴するの言辭にして其誠衷より出でしとせば我は層一層扶掖誘導に勉めざるを得ず日本國民義俠心に富むとは古來自ら聲言する所なるも其風や唯だ市井の俠にして大義大俠にあらず、而して今ま隣國の民其國勢の揚らざるを憂へ自ら來つて我れに投ずる其の境遇最も察すべきものあり而も我れ之を省みず蹈跙逡巡勇往の氣なきが如きは終に世界の一國として立つの資格を喪亡するものにあらずや夫れ一國の氣運は猶ほ一人の心意の如し何等變轉の機會あれば著大の進化を來すことあり、嘉永安政以來我邦は屢〻外交上の壓迫を受け

或は馬關の砲擊或は生麥の流血一刺擊を受くる毎に氣運は順次變轉し遂に維新の大改革となり驟に文明の大氣を吸收して今日あるに至れり支那が屢々外交上の壓迫を受けしは恰も我邦嘉永安政以來の經過の如く之が爲に氣運の大變を見るべき多言を須ゐずして明なり、固より日支兩國其國情を異にするを以て支那は日本よりも舊く外壓を受しに拘らず其開發我れより晩きものは彼れの國土尨大にして開發の氣全境に及び難きが爲めなりしも尨大なる者が一たび進境に向へば其勢刮目して視るべきあり而して從來支那が受たりし刺擊は未だ全境に及ばざりしも其勢は年を趁ふて積重しつゝあるにより今にして手を下さば玆に始めて眞の開發を遂げ得べし即ち當時の米國が一面に於て日本に對する刺擊者たると同時に一面に於て開發者たりしが如く日本は日淸戰役北淸事件に於て支那に對する刺擊者たりしと同時に一面に於て開發者たるべし、況や當時の日本國民は開發を迎ふるの意なく寧ろ開發を强行せられし傾あるに反し今の支那國民は却て開發を歡迎するの意あるに於てをや、勉めずして可ならんや

支那學制の改革

支那は先年八股の科制を廢して人材登用の上に一大改革を加へたりしが近來に至り大中小學の學制に

關し日本及び歐米の制度を參酌して大に面目を改めたり此の改革は清國政府の管學大臣張百熙氏の上奏（事は明治三十五年九月中に在り）に基けるものにして同民が清國皇帝陛下に上りたる奏文の概略を記すれば實に左の如し

臣謹で按ずるに古今中外學術同じからず其の用を致す所以の道は則ち一、智力並爭の世に値ふて富强致治の規を爲す朝廷(更新の故を以て之を人才に求め人才の故を以て之を學校に本づく則ち歐美日本諸邦の成法を節取して以て我中國二千餘年の舊制を佐けざる能はず亦時勢の然しむる所なり、唯其の現行制度を考ふるに亦頗る我中國古昔盛時の良法と大概相同じ、禮記に載す家に塾あり黨に庠あり術に序あり國に學ありと試に之れを各國に比するに國學は則ち所謂大學なり家塾黨庠術序は則ち所謂蒙學小學中學なり其等級蓋し甚だ分明なり記に又曰ふ比年入學し中年考校し一年離經辨志を視、三年敬業樂群を視、五年博習親師を視、七年論志取友を視る之を小成と謂ふ九年知類通達强立して反らず之を大成と謂ふと其の一年三年五年七年九年の節は即ち所謂大學中學小學蒙學の卒業期限なり、其科目は則ち唐には律學算學書學の諸門あり宋は唐制に因りて益すに畫學醫學を以てす未だ詳備に及ばずと雖も亦所謂法律算術習字圖畫醫術の各學科と甚だ相殊ならず司馬光分科取士の說朱子學校貢舉の私議あり諸經子史及び時務に於て皆科を分ち年を限り以て其績を齊ふす、外國學

堂に所謂分科選科なる者あり之れを視ること最も重し意亦正に同じ大抵中國周より以前選擧學校合して一となる漢より以後專ら選擧を重んず隋の進士科を設くるに及びて以來皆精神を詩賦策論に殫し所謂學校なる者名存するのみ、故に今日にして敎育の振興するを議す必ず眞に能く學校の舊に復するを以て第一要圖となす中外政敎風氣原本同からずと雖も然れども其條目秩序の至賾にして亂るべからざる者固より必ずしも盡く其の跡に泥まず亦其長を兼取して以て變通を期して科を盡さゞる能はず、臣此の次擬する所の章程は謹で古制に上溯し列邦に參考し京師大學堂章程幷考選人學章程暨び各省に頒發するの高等學堂中學堂小學堂章程各一部を擬定す又蒙養學堂は小學の始基たり前に諭旨を奉じ各省をして擧辨せしむ謹で再び蒙學堂章程一部を擬し共に六件一併に御覽に開呈し恭く頒行を候す云々

以上奏文の旨を看るに支那の學制を古法の美に復し日本歐米の長を採て之を補足し幼稚園(則ち蒙學)小學中學大學を設けて漢代以來人を取るに專ら選擧に據るの弊を矯め周以前に於ける選擧學校合一の制に從はんとを欲せるものゝ如し、嚮に新學の興るを忌みて之を撲滅せんとし新學勸告者を排擊するに努めたる支那政府が今ま此新制を採るに至りしは時局の大遷を見るべく大學制の如きも張大臣の奏上に由り我邦の制度に倣ふて政治文學物理農業工藝商務醫術の各學を置き高等學校師範學校をも特設

第二編　支那開發は物質的なる可し

すと聞く支那の天地が案外開發の氣運に向ひ來りたるを祝せずんばあらざるなり

第二編

支那開發は物質的なるべし

支那は世界の大市場たるべく之を占むる者は勝ち占めざる者は勝たず、日本人の手を以て幾分か之を占得せば其れだけ日本の勢力を增大する者にして本邦人が永く島國人にして已む能はざる以上進んで支那開發を爲すべきと復た言ふを要せず、近來本邦學問過食の弊甚しく文字ありて衣食に窮する者少からず其結果人物經濟の道理に反し國民遊惰の風を助長し全躰の上に惡影響を被らすに至る、故に一方には人材の節限を爲し有爲の士をして充分の活動を得せしめ一方には剩餘の人材を清韓二國の如き將來我が勢力範圍たるべきの地に輸出し無用を轉じて有用と爲すは洵に目下の急務たり、幸ひにも支那は今ま文明吸收に熱心し我邦に派するに文武の學生を以てし近くは女學生をも送致して我の文物に接せしめんとす、是れ本邦人が正に乘ずべきの秋にして官民上下一致して之に嚮ふを要す、露國が日本に遼東還附を迫りながら己れ取つて之に代りたるは本邦人の永く忘る可らざる所なるも今に至り之を言ふて益なし、我は當に實益上、實勢上に支那を略取して以て之が報復を圖るべし、斯の如くせ

ば强ち政治上形式上に支那に占據して種々の煩累を招くに優ると萬々なる者あらん、近來支那朝鮮に一種の頑風吹き荒み學生の日本派遣を非とし、又一二野心の國が支那遣外生が日英米の風習に感染するを妨ぐるあり、偶ま支那學生の歸國者中にも不消化の民權論共和主義の如きを唱ふる者ありて皆一時の障害となるべきも、永久支那を妨げて我邦より文明を吸收するの大勢を阻止し得べきにあらず、我邦亦た自動的に進行して支那開發を試みば希望を遂ぐると難きにあらざるを信ず、要は不撓の精神を執て之に當るべき也、更に支邦開發に志すの士に告げんと欲する者あり、凡そ未開の邦を開くは物質的より進むを可とす、輕忽に考ふれば先づ精神的に文明を注入して後ち物質的に及ぶを得策とすべきも是れ却て不測の禍を買ふのみにして結果擧らず、試に日本の實例に徵するに葡萄牙人が三百餘年の昔より精神的に日本を薰化せんとしたるも其事皆畫餅に歸し島原の亂後、深く日本人の爲に嫌惡せられ排斥心を勃興せしめたる外何の得る所なかりしに、嘉永の黑船渡來は物質的に我邦を醒覺せしが爲に其成績案外良好にして又容易なりし、本邦人の支那開發亦之に鑑むべき者にして須く醫術理化學工藝の如き目に視て心に悟るべき徑路を擇まざる可らず、若し然らずして高尙迂遠なる心理的方便を採らば忽ち非常の反抗を來し彼國民をして益々頑冥固陋ならしめん、清國學生の民權論の如き正に之を證せり支那國民の性は日本人と異り容易に入り難く容易に去り難し故に一たび方を誤れば復た治す

るを得ざると同時に一たび彼れの性に投合すれば輙く捨てられず、其初を愼むの最も必要なる所以なり、今や我邦支那開發を叫ぶ者多しと雖も言ふ所肯綮に中らざる者少からず、余輩は之に向ふて物質的開發の最も好きを勸告せんと欲す

支那開發と物質的教化

凡そ如何なる人類なりとも其團衆の全躰を支配すべき信念の無き者殆ど是あらず、日本人の日本魂、支那人の孔孟敎、歐米人の基督敎は其の最も著しきものにして宗敎なると宗敎ならざるとに關せず團衆が精神上の標準として依賴する所の者必ず有らざるとなし啻に日淸歐米人のみならず極めて野蠻なる人類に在りても山を拜し水を禮し禽獸草木昆虫魚介を信仰し若くは其酋長を以て理想の人として之を尊信するが如き皆一念動かす可らざるの根柢あるを證するに足る、故に此根柢に干渉し信念の基礎を第一着に破壞して精神的に他國民を訓化せんとするは最も不利にして百敗の基は正に此に存す、古昔葡萄牙人西班牙人が基督敎を我邦に輸入せんとして日本官民の嫌忌を受けたるは其適例にして米國人が嘉永安政の頃物質的に日本に入込みしは開發の順道を得たるものなりされば我國民が支那開發に從ふも深く此順道を得るを謀らざる可らず、況や支那人は保守的なると共に其信念に就ては最も深く

最も固く他國民が如何なる手段を以てしても決して移す可らず故に支那開發には此信念に逆ふとなく却て之を利導し之を助成し之に賴りて開發訓化の實を擧ぐるに勉むるを要す、本邦人は支那人の性質を以て頑冥にして化し難しと言へども朝夕に變轉して些の定見なき者に比すれば優ると萬々にして我邦の開國當時と雖も開港の說を聞きて全國の候伯直に之に雷同するが如くなりしならんには曷ぞ今日の如く歐米の文明を輸入して其佳處を利用するに至るを得べけん、支那開發の大業に從ふ者は此趣意に準據し精神的訓化を施すとなく物質的開發に勉めば成功蓋し的確なるべし、抑も支那廿四朝の歷史を繙閱するに贏顚劉起常に一系の君主あるなしと雖も其の如何なる治世をも一貫して信念の中樞となれる者儼として存す則ち孔孟敎是にして此敎の支那人を支配するの深き想像の外に在り秦の始皇帝無比の暴戾桀驁にして書を焚き儒を坑にせりと雖も孔孟敎の浸潤と傳播とを妨ぐるには何の効力も非ざりし啻に是のみならず所謂贏顚劉起の間兵火紛々の爲に古書の亡びしと幾萬幾千なるを知らずと雖も其道は孔子歿後三千年の今日に傳へて赫として光明を發しつつあるにあらずや、之に據て開發の手を下すの利益なる豈復た言ふを須たんや

孔孟敎は支那人の道德なるのみならず又彼等の理想なり宗敎なり故に之を犯すは偶々彼等をして反抗せしむる所以にして開發の妨害となると必せり、況や本邦人は彼れと道德の根柢を同ふする者なれば

更に他の精神的敎化を執つて彼れに加ふるの必要を見ず、是れ余輩が支那の道德界に干渉す可らずと斷言する所以にして同時に物質的敎化を採るべしと唱道する所以なり

然りと雖も世界物質的文明の淵源を尋ぬるに同じく支那に在りて今日文明の根本たる活字の如き煉瓦の如き火藥の如き製陶の如き磁石の如き天文の如き禮樂衣冠の如き支那に發生せしものを學習し傳承して今の歐米の文明を大成せしに過ぎず、而して支那は中世に至りて是等文明の發達を怠りしが爲に今の衰態に陷りし者なるに由り我邦の開發者は物質的の敎化を施すに臨み今の文明なる者は古へ支那の產みし所にして我は之が復興を謀る者なりと言はゞ支那人の同情必ず多かるべし、斯の如くにして農工技藝製造の專門家は面り彼れに示すに其得意の處を以てし則ち養蠶家は實際の學理經驗に基ける養蠶法を以て彼れに示さば其結果放漫なる今の支那養蠶家の爲す所に幾十倍良好なるを得べく、印刷業者は實際の學理經驗に基ける印刷法を以て彼れに示さば其結果今の支那の剞劂師が爲す所に幾十倍良好なるを得べく、農事技師は實際の學理經驗に基ける稼穡法を以て彼れに示さば其結果無智なる支那農民の爲す所に幾十倍良好なるを得べく、醫師は實際の學理經驗に基ける醫術を以て彼れに示さば其結果傷寒論一部の卒業生たる支那醫師の爲す所に幾十倍良好なる者あらん、銀行家も船員も鐵工も釀造家も官衙の被傭者も學校の敎師も皆現實の効力を呈示し支那國民をして是れ曾て支那人の祖先が

發明せし所にして日本人の爲に復興を得たる者なりと思はしめば誰か其意の厚さに服せざらん、夫れ今日の文明を以て西洋の文明なりとして之を支那に移さんとせば支那國民は歐米人に就て之を學ぶの優れるに若かずと爲さん、而も是れ支那國民の利益にあらず又日本國民の利益にあらず日本國民既に支那國民と同一躰となるの覺悟ある以上自ら進で之を爲すは寧ろ當然の權利にして又義務なり、要するに支那は物質的に由りてのみ敎化すべく物質的文明の根源は支那に在り而して之が敎化に當る日本國民は支那古文明の復興を以て任ずべきなり

支那開發と復古の旗

支那開發の方便種々あるが中に彼れの心性に投じて其道を執るを以て最も適當且つ利益なりとす、余輩の見る所を以てせば復古の旗幟を用ふるが如きは則ち其一法にして必ず彼れの民心を得べしと信ずるなり、抑も一國の開發に志す者は其國の民心を覽るを必要とす苟も民心に背かば其計畫如何に巧妙周密に其着眼如何に奇警なりとも事遂に成す可らず、特に支那國民は極めて古を尙ぶの風あり又自ら尊しとするの俗あり此風此俗幾千百年來傳承せし所にして今後亦永久に扳去るを得ず是れ支那開發に志す者の深く注目すべき所にして苟も之に背反せば開發の事は到底成り難し、世に支那人の此風を以

て頑陋なりと嘲る者少からずと雖も其舊俗を貴び自から高しとするは決して不善の事と謂ふ可らざる已ならず一事一物皆な他國に心醉して自主の精神なき者に比すれば優ると固より萬々にして英國人の如きも自から高しとし自から尊むの程度に於ては支那人に讓る者にあらず而も支那人は頑陋の民なりと嘲られ英國人は自主の心強く見識高しとして嘆賞せらる謂れなきにあらずや、去れば支那人の尚古自尊の氣に投ずるは決して厭ふべきことにあらずして却て彼れの美風を補成する者なり、斯の如くにして我邦の開發者は支那國民に向ふて聲言すらく支那の上世唐虞三代の化は政治の最も善美なる者なり明主上に在り、賢相之を佐く治國の要道此に悉せり吾れ汝の國の近ごろ微弱振はざるを見慷して慨ずるや久し則ち涓埃の誠を致して以て唐虞三代の化に復歸せんとす志を同する者は此旗幟の下に屬せよと是れ支那國民を化する辭令の最も好き者なり、思ふに何れの國民か自負心なからん之を我邦の實例に徴するも維新の改革は王政復古の旗幟の下に成就せられ其後西洋の文化潮の如く注ぎ來りしと雖も是皆な王政復古の政治を補翼するの具として採用せられしに過ぎず、若し維新の改革にして初より洋風摸倣を以て旗幟とせば國論鼎沸何れの日か開發の實績を得ん支那を開發する者亦此點に就て三思すべきなり、然るに彼の支那內地に學校を建てながら君が代の唱歌を歌はしむるが如きは支那人の特處なる尙古自尊の心と衝突する者にして正に百敗の基たらざるを得ず心せざる可からず

物質的教化と復古主義

支那開發に關し唐虞三代の化に復するの名を以て之が手段と爲すべきを說き併せて物質的教化を主眼とすべきを論ぜしに就ゐて或は疑を挿む者あらん、曰く唐虞三代の化に復すとは支那人に尙古自尊の心あるが爲之を利用し古政の美點を復活して支那國民をして洽く其慶に浴せしめんと言ふ者にあらず や然るに一方には物質的教化を注入して新進の學理經驗を示し彼をして開發の實を得せしめんとす是れ相矛盾せる者なりと、然れども余輩の唱道する古政回復とは世の漢學者の思ふ所と徑庭あり頑冥にして移らず己れを知つて他を知らざるの謂にあらず支那が今日の狀態に陷りしは古政を襲踏し孔孟教に服從せしが爲にあらずして寧ろ古政の美處を咀嚼し孔孟教の眞髓を體し得ざりしが爲のみ、若し古政なるが爲に弊ありとせば日本は王政復古廢藩置縣の爲に今日の進步を見る能はず孔孟教にして弊ありとせば德川氏は此教に賴て天下の秩序を維持し忠義心の隆興を得る能はざりし故に古政古教の美を發揮するは支那をして今日の衰狀を免かれしむるの好方便たると共に支那國民の心服を博して眞に開發の功を擧るは寧ろ他に途なし、況や致知格物の教の如き一言以て新進主義の精神を道破せるものにして今の支那學者及び我邦の漢學者が其學問の爲に徒に頑愚の人となれるは唯だ古書の字義をのみ研

究して實地に運用するの心智を缺けるに因る、屈原の言ひたる聖人は物に凝滯せず能く世と推移するの意は明に孔孟教の骨子を説明せる者にして是に由て之を觀れば物に凝滯し世と推移する能はざる者こそ却て又聖人の賊と謂ふべし、唐の盤の銘の日々に新なるの一句孔子の後世畏るべしの語の如き如何に文明的に如何に推移的なるや之を今日の灰殼者流が西洋文化の弊處をのみ受け來りて揚々壯語する者に比して月鼈薫蕕も啻ならざるなり、日清戰爭に於て日本が支那に勝ちたるも彼の灰殼者流は新文明に勝ちし者と解釋すると雖も是れ寧ろ日本に孔孟教の骨髓則ち忠魂義魄と日新の知識とありて支那に之なかりしが爲のみ若し日本の勝利にして單に戰術軍器兵艦等の賜ならば南阿戰爭に於て英兵が杜軍の爲に惱さるる道理なし、則ち余輩が古政回復孔孟教復興を支那開發に應用せんとする所以は其政治其教義の骨髓を執つて進まんとするに在り斯の如くにして古代の支那文明に胚胎せる今の工藝技術農事製造百般の教化を彼れに施さば我れの入り易きと共に彼れの之を受け易きと固より論なく從て相矛盾するの憂あるを見ず、論者復た疑ふを要せざる也

基督教徒の成功せし支那開發

近來歐洲の政府が其宣教師を支那内地に入らしめ之に由りて開發事業を試みんと欲するは思はざるの

甚しきものにして歐米人は之が爲め却て支那國民に嫌忌せられ開發を企てたる前に比して一層不良の狀況を釀成せしと世人の普く認むる所なり彼の基督教徒も亦無謀にして支那國民を視ること塵芥の如く獨り自ら高り宗教者たるに適せざるの行爲なきにあらざりしは今日歐米の國民すら之れを認るに至れり、然れども古來支那開發を試みたる基督教徒が皆斯の如く無謀なりしにはあらず、余輩曾てペルッ氏の所説に聽く支那に傳播せし基督教には四期あり其第三期は十七世紀に在りてエズイト派の經營する所たり同派の布教に從事するや頗る機知に富み事を謀るに短促ならず聖母の像を隱匿して佛衣を之に被纏し成るべく支那の古俗に扞格せざらんことを力めり而して清朝の祖先も亦深く之れに信賴したるを以て學識ある宣教師の東亞に往きたるもの頗る多く清人の天文を講じ曆日を改善し工業を奬勵し砲術を修錬するに至りたるはエズイト派の賜なり云々と、余輩は前に支那の古俗に扞格すべからざるを説き更に支那開發の物質的に據らざる可らざるを言ひ物質的教化の成功して精神的教化の失敗せし事例を掲げたり而して今ま此説に徵するにエズイト一派の經營は大體に於て余輩の説ける所と吻合するを見る、此の故に當時の支那國民亦た好て彼等の言ふ所を聽き天文曆日工業砲術を改善するに至れり、故に此途に由りて進む者は成功し此途に由らざる者は成功せず、唯だエズイト派が爾後支那開發を繼續せざりしは同派が加特力教に屬するものにして我邦に於けると同じく物質的教化を以て終始す

る能はず初に物質的教化を用ゐて後に政教的野心を露はせしが爲に其功を成す能はざりしに由るか若し然らば本邦人は唯だ其初を學んで其本體を學ぶべからざるものと謂ふべし、今日支那が少しく開發の氣運に向ひ我邦に信頼するの傾向を見るに至りたるは其事頗る賀すべしと雖も我邦の支那開發者が考慮周匝ならずして或は成功の急速を欲し、或は西洋の文明を露骨に注入せんとし或は誨ふる所ろ精神的に傾きて我が國歌を以て彼を化せんと欲するが如きとあらば其智は當初のエズイト派に及ばざる遠を證する者にして失敗立ろに至らん、今の歐洲宣教師が支那に於て屢〻嫌忌せられ失敗を取る所以はエズイト派の智に倣はざるに因ると雖も若し一朝彼等が此に着眼し開發の正經を看破するに及ばば其成功着々として期待すべく本邦人の爲す所ろ或は之に若かざるやも知る可らず北清事件ありてより在清宣教師の倨慢尊大なると漸く歐米識者の指彈する所となり一般の人衆亦た時々之を攻擊するに至れる以上彼れ基督教徒も更に考慮一番新道を執つて進むとなしと謂ふ可らず、日本は支那と古來聘禮の事ありしとは言へ歐米人が支那に入りしとも亦た數百年に及べるが故に若し本邦人が支那開發は絶對的に我が事業にして他人は之に與かるを得ずと自負せば是れ誤謬なり、思ふにエズイト派が十七世紀に於て余輩の說と同一路を執つて進みたる例ありとせば其方法假令直接に今の歐洲基督教徒に傳はらずとも後人の爲す所數百年を隔てゝ偶々相吻合し相類似するとなしと斷じ難し、是れ何事にも之あるの例にして本邦の支那開發者が歐米の基督教徒と角逐して勝敗の岐るゝ點實に此に在り思はざる可らざるなり

衛生的支那開發

交通の頻繁なると共に病毒傳播の憂多きは古往今來の遂に免かれざる所本邦人が支那開發を爲すと共に最も注意を加へざる可らざるものは亦此一事に在り、嚮に横濱の天地をして非常の驚動を現ぜしめたるペスト發生事件の如きも上海より輸入せし棉花の爲に外ならずと云ふ、日本が自衛の道を講ずるに於て此等の點に對する用意を爲すは固より當然なると共に本邦人が進で支那開發の天職に當らんとするに際し衛生的に彼を訓化するは寧ろ兩樣の利益を生ずる者なり、本邦人が支那開發の事業を遂げ彼我の近接すると益々密なるに隨ふて衛生的訓化の必要も益々其度を加ふるが故に若し日支兩國相賴つて一丸となるに至らば此點に關する用意も亦一層嚴密ならざるを得ず、幸にも本邦人は最も潔癖にして衛生思想亦淺薄ならず之を以て彼の汚穢を以て世界に鳴る所の支那國民を化せんとす寧ろ配合の妙を爲す者にあらずや、今日に在りても支那の一地一港に惡疫あれば直に長崎に來り神戸に來り横濱に來る、横濱に發生せしペストの媒介たる棉花は從來輸入せられし如き不淨なるものにあらずと聞く

も其れすら尚恐るべきと斯の如し其他のものにありては危險の度果して幾何ぞや、我邦に於て支那より仰ぐべきもの棉花あり蠶繭あり是等は皆多少病毒を媒介すべきものにあらざるなし今後我邦の工業發達し支那より仰ぐべき原料の品種數量益々多きを加ふるに至りては病毒の移入之に準じて滋きを免れず、一方には低廉なる原料を輸致するも一方に於て病毒の移入多くは商業は意想外の打擊を蒙むるに至らん余輩は茲に他衛は自衛なりとの論法に由り先づ病源たる支那の風氣を一洗し之をして無毒ならしめんことを企圖せざるを得ず、縱へ邦人が支那開發を念頭に置かざるも世界の大勢は支那を以て世界的市場と爲しつゝあるが故に支那と各國との關係は自然緊密を加へざるを得ず而して支那と本邦との關係も亦自ら然るに至らん要するに對支那の關係は則ち對支那の衛生的自衛を喚起するものにして對支那の衛生的自衛は衛生以外の開發事業と共に、若くは之よりも先に進行せらるべきと言ふを待たず是に至りて此問題は本邦人の解決を待つの外なく本邦人亦進で之を解決すべきは寧ろ其天職を遂ぐる所以の道なるを見る

支那開發を爲すに精神的に依らずして物質的に依るべしとは余輩の常に唱道する所、而して衛生的開發は言ふまでもなく物質的開發の一部なるを以て余輩は衛生的支那開發の特に切要なるを感ぜざる能はず、思ふに衛生的支那開發の困難は何人にも感ぜらるべき所なるも其困難と共に必要の度は他の開

發に超ゆるを以て衛生的開發は他の開發事業に勝るの精力を以て進行せられざる可らず、近來同仁會の如きありて衛生的支那開發を試むるは最も喜ぶべき所にして之に由つて支那國民の衛生思想を喚起し施ゐて日本の自衛法に裨益を與へば其功たる偉なりと謂ふべし、然れども我邦より之きて衛生的開發に從事するの士に對し殊に注意を乞はざる可らざるものあり夫れ支那には支那の氣風あり之を犯さば如何なる良醫なりと雖も決して彼の信用を博取するを得ず故に醫術を以て彼に臨む者は先づ多少の漢學素養あるを要し略々漢文を屬し詩章を聯ぬるの能あれば尚ほ可なり次に其施す所の術は歐米の新學問に基くものと言はずして太古炎帝神農氏赭鞭を以て草木を鞭ち百草を嘗めて始めて醫藥ありし當時の遺法之を鑽究改善して成りしもの是れ我大日本の醫術なりと說くを要す、藥名の如きも可成的漢名を用ゐる處方は水劑を忌みて丸藥と爲すの類時に臨みて宜しきを制するにあらずんば一種言ふ可らざる嫌厭の心は忽ち我をして永く留まるを得ざるに至らしめん、今日歐米の醫師が大に支那に於て成功せざる所以は其治術の如何よりも先づ彼の心に投ずるの道を得ざるに因る而して此點に於て日本醫師は最も利益ある者なり、凡そ何人と雖も其生命を愛せざる者あらず唯だ今の支那國民が不潔不衛生にして好みて死を招くの趣ある者は一は彼等の無智冥頑に因ると雖も一は之を指導して生命を愛護する所以の道を敎ふる者なきに在り而して日本醫師が既に其術を以て彼國民の信用を博取せし以上更に之

を敎へて衛生の道に就かしめ病毒の如何にして特發し感染するか、不潔の何が故に恐るべきか、眠食の何が故に節制せざる可らざるかを說示し歷々其確證を擧げて彼等に誨へば彼等は玆に始めて生命愛護の道を明にするを得て衛生的開發は其緖に就くに至らん而して我邦の自衛も畧々目的を達するを得るなり物質的開發の道多しと雖も生命を護するの道より明なるはなし過般日本醫師某氏が袁世凱氏の子息の病を治して大に彼國縉紳間に名聲を博せしは正に此適例にして又最も信用を高め得べきの道なり幸にも我邦の醫術は其進步の度に於て歐米と多く讓らず醫師の數亦少からず之を以て支那國民の祖先以來草根木皮に依つて維持し來りたる體軀に臨まば投藥の奏効歷然たるものあるべく而も能く彼に入るの道として前文の注意を怠るなくんば其績を擧ぐる甚だ難からざらんとを信ず

第三編

支那開發は强ゆ可らず

支那を開發せんと欲せば其の人心の趨嚮を考へて之を利導するを以て必要とするは旣に說明せし所なり、按ずるに古來一國民が他國に之きて開發的事業を爲す者を見るに此趣意に從ふ者は成功し此趣意に背く者は成功せず我政府が臺灣を經營するや當初勉めて其俗を矯改せんとせしが爲に屢々失敗を受

けたり英國は數多の屬地を有すと雖も其民俗の存する所には決して無用の干涉を爲さず是他國の民を化するの要道を悟れる者、余輩は支那を以て日本の屬地と爲さんと欲するにあらず唯だ日支兩國を打つて一丸と爲さんとを希望する者なるも其れすら本邦人が能く此趣意を領得するにあらずんば到底行はるべきにあちず、試に日本人自身の先祖が經驗せし所に徵するも葡萄牙西班牙等の國人が基督敎を以て我邦に臨み種々の宗禮を以て我邦人に强ゐんとせし時日本人の祖先は果して之を甘受せしか、否忽ち之に對する反抗心となり攘夷主義となり島原の役となり由井正雪一派の騷亂となり其結果野心なき外人を見るも總て邪敎を弘め我邦の基礎を危する者の如き觀念を發し維新前の攘夷鎖港論と雖も其源は遠く三四百年前に胚胎するを致せり當時の外人が着眼宜しきを得ざりしに因ると雖も亦其弊の深酷なるを見るべし而して日本人は其祖先が斯る經驗を得しに拘らず今復た支那開發に於て過を再びすべけんや、歐洲の宗敎家も亦其祖先が日本に於て斯る失敗を演ぜしに拘らず其敎義を以て支那に推及せんとせしより又復た支那人の大反對を得て義和團の如き者をして蜂起せしめ其背後には支那帝室の懿親たる有力者若くは兵部の將帥を見るに至りしは如何に義和團なる者が支那の人心を得つゝありしかを推測し得べきと共に開發を强ふるの如何に戒むべきとなるを知るに足らん、西洋人は基督敎を以て入込むを最も得意とし之を措きて他に妙計なきが故に自ら此手段に出づるも亦已むを得ずと雖も日

本人は毫も彼國民の人情風俗を破らず彼我共通の道を以て能く彼に投じ得るの策を有しながら何を苦みて拙計を以て彼に臨むと西洋人の如くにして再三再四の過を重ぬるの要あるべき、而して何をか彼我共通の道ぞと云へば支那化せる日本人を出すと漢學を復興すると等則是にして孔孟教は日本に於てこそ一の學派なるも支那に於ては全く宗教なり而て此宗教や西洋人之を知らずして日本人は之に精通せり是豈に日本人が支那開通に應用すべき絶好の武器にあらずや

何故に上流より入るべきか

支那開發を謀らんとせば先づ上流より入るべし他國に關する事業を計畫するには其國の重點の何れに在るかを洞看するを要す喩へば物を扛ぐるが如し最も重き點を捉ふれば輕き處自から擧がるも若し先づ輕き處を執れば重き點の擧がるに先ち氣衰へ腕痿へん而して支那開發も此理に同じ、支那には御史(言官)なる者あり犯面して直諫するを以て其職と爲すと雖も實際は能く然ると能はず屬略に依つて人を毀譽し請托に應じて褒貶す故に其弊蟠屈し閣上の大臣と雖も容易に彼等の爲に動搖せらるゝとあり故李中堂も之が爲に苦められ今の袁宮保も之が爲に艱みつゝあり而も言官の勢力は見へざるの處に蔓延するを以て某々野心國の如きは巧に言官を使嗾して其の妨害となる者を捕擊せしむ是れ隱冥の間に

宮中の重點何れに存するかを知ればなり、今ま支那開發は公事なり永久的なり決して言官の力に賴るを要せず又之に賴るも擧功の助と爲す可らず則ち更に支那上下の重點の懸る處を見、地歩を此に占めて後に動くを要す、支那は貴族國にして平民國にあらず故に西洋民治の國に臨むの筆法を以て支那に臨まば敗るゝと必せり國家の重力は全く上流權門の手に在り政權も兵力も金力も智力も皆な縉紳社會の專有なり民間にも固より巨產富豪多し、然れども勢力之に存せざるが故に實績あり重量ある行動を爲すを得ず隨て開發者が上流權門の信望を得れば下流は自から動き來らん是れ上流より入るべきの最大理由なり

然るに歐米人の爲す所は此の最大理由を視ざるが故に開發の實績擧がるを得ず、彼等は宗教則ち精神的教化を以て下流より化し始めんとせり、思ふに歐米の傳道者が其教化の爲に投下する資金は非常の額に上るべし但だ其資金は有限にして信者(所謂)の慾望は無限なり初は金を散ずるが爲に信者即ち下層社會の麕集を見るべきも是れ餌を求むる小魚のみ餌盡れば何を以て進て鉤に上らん或は金を目的とせざる者は外國語の習得を欲するが爲に假に教會に出入するの輩に過ぎず結局宣教師の勞は支那下層民の爲に利用せられて剩す所は所謂信者以外の多衆より來る嫌惡の念のみ、若し偶々永く教旨の爲に力を致す者あれば是れ偏狂にして支那人中の變物視せらるゝ者のみ或は罪を犯して基督教寺院に潛伏

する者は支那の法廷が之に對して刑律を施し難きとあり斯の如きは偶々支那人多數の怨む所となり狡の徒は外國寺院を以て良好なる逃避處と爲す者すらあり是れ宛も外國宣教師等が支那良民を苦むるに同くして歐米人中に在ても公平の眼識を有する者は宣教師等の爲す所ろ宜しきを得ざるを言へり、思ふに日本に日本魂ある以上支那には支那魂あり支那魂とは射利の謂のみにあらず外兵の暴行に逢ふて水に趨く少女、外國の宣教師の横暴を憤りて一死を輕せし拳匪の如き其行狀常經を以て論ずべからざるも以て一片支那魂の存在を認むべし、是等の點に着眼せず徒に歐米人の爲す所に倣はゞ我は當年の西班牙となり葡萄牙となりて却て他の和蘭たる者をして最終の利を得せしむるに了らん、支那開發の順序として上流より始むべしと論ずる所以茲に在るなり

西葡兩國の轍を踏む勿れ

支那を開發せんと思はゞ日本が開發せられたる歷史を追想すると必要なり日本と支那との間には國情民性の相違固より之ありと雖も開發の順序は大躰に於て一定の徑路あり乃ち前例に鑑みて後の方針を立つるは開發の目的を成すに於て裨益あると復た言ふを要せず日本の歐洲と交はりし初め西班牙葡萄牙の二國來り各々宗教の同化力を以て我邦の信仰を迎へ其結果多數の信者を出せしのみならず諸侯の

中にも之に歸依せし者あり南蠻寺の設置處々に行はれしが此風潮は端なくも他方よりの反抗を惹起して漸く憎厭の眼を以て見らるゝに至りたり、和蘭は恰も此機先に乘じたる者にして彼れの來るや先づ時の治者に密告して曰く西葡兩國は邪宗を奉じ他人の國を奪ふ者なり葡萄牙が支那に於て澳門を奪ひ西班牙が南洋に於て非律賓を奪ひしと皆此例にして其奸毒憎むべく恐るべし我和蘭の如きは廼に殊なり我が宗教は上に法王を戴き之が命令に據て他國を侵害する西葡二國の邪宗の害毒を悟つて別に起りたる新教にして政治と相干繫する所なし我が目的は往來交易に在り厚生利用に在りて他に異心なし是を以て風濤を冒して敢て貴國に前み來れり願くは遠來の者をして望を失はしむる勿れと、是れ當時西班牙が舊教國を以て南方の盟主となり大に世界に手足を伸べんとせるを見て新興の和蘭が起て競爭を試みたるなり、斯くして和蘭は密告の功に依り長崎の出島に於て互市を許されしも尙ほ萬一の忌諱を憚り我れに對して臣禮を執り小心翼々只管既得の利を失はざらんとに勉め德川氏が豐臣氏に嗣ぐで大柄を執るに方り所謂邪宗の恐るべきを悟りて專ら外人排斥を事とし或は舊教徒を捕へて磔殺し火殺し茲に一旦內外の交際を斷ちしこと外人の著書にも之を記し今の北京駐在英國公使たるサー、アーチスト、サトウ氏(前東京駐在)が其對日本觀察眼より著述せる所にも之を載せり而して此の宗徒虐殺を以て日本の外交は一段落を告げ日本は全く歐洲の文明と隔絕せしものゝ如く見ゆるも其の實全く然らざ

りき

余輩は是に於て物質的敎化と精神的敎化との利害を考量せざるを得ず日本は斯して外來の精神的敎化を排擊し其手段の辛辣酷烈なる殆ど外敎を根絶したりと雖而も物質的敎化は其効忘れんとして忘るゝ能はず醫術の如きは最も蘭方の奏効神速なるを稱し醫士の蘭方を研究し蘭文の醫書を飜譯するは之を妨げず將軍の病にも時として蘭方の醫案を受けしとすらあり是れ皆物質的敎化が善く他國に容れらるゝの確證にして日本が支那開發を試むるも深く此點に心するを要す、此の一縷の命脈則ち日本が外來の精神的敎化を排擊し盡し剩す所ろ唯だ物質的敎化のみとなりしものも永く滅せんとして滅せず維新改革の基礎を爲すに至りしを見れば蓋し思ひ半に過ぐる者あらん、是れ支那開發に應用すべきものにして若し我邦人が精神的敎化を先にし假令宗敎ならずとも社會主義の如き自由民權說の如きを注入せんとせば忽ち彼れの忌諱に觸れ我は四百年前の西班牙となり葡萄牙となり永く志を遂るの時なけん、支那は世界に於ける物質的文明の淵源にして偶々支那の史乘に之を載すること多からざるが爲に彼れ自から之を知らずと雖も彼れに向ふて今の新なる物質的文明を吸收するは則ち彼れの古に復する所以なるを誨へ復古と開國進取とは毫も矛盾する所なきを悟らしめば尙古自尊の風に厚き彼れ曷ぞ傾心せざるとあらん、是れ日本が西班牙葡萄牙の轍を避けて和蘭の功を成す所以なり

支那人に對する言行

言語は人の精神を表彰するに必要缺く可らざる技術なるも之を使用する者の用意如何によりて意想外の珍事を釀成するとあり是れ吾人日々の交際に於てすら實驗する所にして特に外人に對する場合に於ては最も用語の法に愼重ならざる可らず、是れ極めて卑近の道理なりと雖も其卑近の道理が今日我邦の實際に行はれざるは遺憾の至なり、余輩は支那開發を唱ふるに臨み先づ我國民が支那人に對する言語を愼まんとを希望せざるを得ず歐米に於ては新聞紙上僅に數行の不穩文字が外國の感情を害し施わて外交談判となり戰爭となるの事例極めて多く又野心ある國は其新聞紙に罵られ攻擊せられし國を煽動して事端を釀さしめ己れ其間に立ちて漁夫の利を射んと圖るとなきにあらず日本人は外交に幼稚なるを以て斯る危險のあるべきをも思はず外國人に對し平氣に暴行慢語を試みつゝあれど若し之を道具に使ひて我邦に何かの難題を申出でんとする國あれば其材料到る處に存在するのみならず多少文字ある者と雖も無要の不穩言行を外人に加ふるの風あるは國民の稚弱なるを證する者にして甚しき汚辱なりと謂ふべし、我國民は日清戰爭開始以來頗る支那人を侮蔑するの風を長じ之と齒するを耻づるの趣なきにあらず戰敗國としての彼れが戰勝國たる我れに下るは自然の結果として見るべきも深く考へて

支那開發の主點より言へば日本國民が支那人を屈するは一家族の不和合と同じく決して利益にあらず然るに今日の實際を見れば我國民は支那人を呼ぶにチャン或はチャン〳〵坊主を以てし自ら尚ぶるの陋習あり夫れ支那人を嘲り支那國に勝ちたりとて何の名譽かある而も無智の幼童のみならず其父兄まで益もなき嘲罵を彼れに加へて得意なる其心事の醜劣殆ど支那人の下に在り、人誰か自尊の心なからん彼れ支那人と雖もチャン或はチャン〳〵坊主と呼はるゝとの甚だ殘念なりしと見え日清戰爭中の支那新聞には「倭人常に華人を呼んで錚々謀士と爲す」と記せし例あり錚々謀士をチャン〳〵坊主の音便に用ゐしと頗る滑稽に類すと雖も斯る些事すら尚ほ彼等に一片氣魄の存するを知べきにあらずや、試みに思へ本邦人米國に於てブラデー　シャッブ（汚穢なる日本人）或はサン　オブ　ヴイッチ（牝狗の子）と呼ばれて如何なる感覺を生ずるや、知らず支那人をチャン〳〵坊主と呼ぶの徒は米人の爲に牝狗の子と罵られて是れ相互なりと濟ますや如何に、去明治廿四年十一月歌舞伎座に於て豐太閤の朝鮮軍記を脚色して場に上せしに其中の二幕許りは我國家の汚辱を示す者なりとて時の朝鮮公使館より苦情出で遂に其部分を削り去るとなりたり朝鮮國すら斯の如し況んや之より強大なる者をや、假令其反抗は驚くに足らずとするも後日の利害を思へば徒に外國の感情を害して自ら志を成すの妨害を作るの頗る愚なるを悟り得べし、即ち本邦人が支那人及び他の外國人を侮蔑するの言行あるは國家全

躰の損害なるを以て之を根絶するも亦國家全躰の力に俟ざるを得ず警察官も教師も宗教家も一般の父兄も共に力を戮せて此弊を防止すると最も急務にして或は此一事を目的とせる法律を制定する亦た可なりと信ず

開發者の人選

一概に支那開發と云へば頗る茫漠として一塲の空談に似たるも其實決して然らず本邦人の智識を支那に移植し支那をして存立の鞏固を得せしむるは開發の本旨なるが故に支那人を本邦に招來し或は本邦人彼邦に渡航し各々其得たる智識經驗を以て彼の國人を開拓すれば則是れ目的を達する者にして之が爲には銀行家も製鐵技師も煉瓦工も機關師も養蠶技師も學校教師も苟も一藝に秀でたる者は皆必要ならざるなく現在目前に文明の精神を彼邦に注入するを以て本旨と爲す者なれば茫漠架空の點は少しも之あるとなし、喩は我邦維新の改革と云ふも多くは手を以て捉へ目を以て視得べき事業にして架空の計畫は一もあらざりしが如し、斯の如く支那開發は我國人の實力に待たざる可らざるにより空想を抱き疎大の腦髓を有する者は初より開發事業の不合格者として排斥せざるべからず然るに我國人は輙すれば清韓二國を見ると重からず此二國にては如何なる亂暴を働き如何なる匪行を試むるも差支なしと

心得て壯士破落戸の渡航多く所在に出沒して劫掠を逞うし其狀元龜天正の時代に失意の浪士が到る處に不法を働き維新改革の後各藩士族中の不平黨が强盜に變じて良民を惱ませしが如く所謂空學の爲に魅せられ一個の文字ある落魄者と爲りし輩が內地に在りて零落失意を極むる憤懣を散ぜんため清韓地方に押渡り陰に梁山伯の故事を夢みて一擧風雲に乘じて起たんとする者なきにあらず是等の輩が偶々開發の假面を被りて彼國民を欺瞞することあれば眞正なる開發事業に取りて非常の妨害にして彼等の私慾非望の爲め二國々民の日本に信賴するの心を犧牲に供するの虞なきにあらずされば政府は勿論清韓に在りて開發に從事するの士も亦た是等惡漢暴士の跋扈を防止し他國民が日本に信賴するの心をして永久に渝らしむることなきを要す殊に支那には頑冥の分子多く我國人が手を其邦の事に下だすを見て或は何等非違の心あるにあらずやと思ふとなしとせず是れ我邦の開發者が如何に懇切に着實に働くも或は免かる可らざるの數なるに偶々不穩の擧動を爲す者あらば此疑惑は益々長じて終に恢復の途なきに至らん、歐米人が最初我邦に嫌惡せられたるは彼等が日本人を見ると一種下等の者の如く凡ての場合に專橫を働き領事裁判權あるを奇貨として本邦人の權利を無視し常住坐臥にも自から高くし我れを賤むの跡あるを見本邦人は彼等の文野を問ふに先ち第一着に惡感を以て迎ひたるが爲ならずんばあらず基督敎徒が憎厭せらるゝも彼等が我邦の祭日にも國旗を揭揚せず或は　皇室に對して不敬の言行を爲すとあるが爲に外ならず支那の開發事業と雖も亦之に異る所なし苟も彼國人の氣風に反すれば事終に成るを得ざる已ならず却て不良の狀態に陷らん、支那開發者は歐米人が我邦に嫌惡せられ基督敎徒が我邦に憎厭せらるゝの轍に鑑て深く戒る所あるべし

支那開發と列國

支那は世界の市場なるが故に之が形勢には一日も注目を怠る可らず隨て支那開發の一事は最も忽諸に附す可らざる問題にして余輩は此一事を以て國民の信條と爲し擧國一致奮て之に當らんことを望むのみならず今の國民一代にして遂げ得ずんば二代三代を經るも之を計畫して常に已まざらんことを欲す抑も支那開發が我邦に取りて最も利益の大なるは言ふ迄もなしと雖も我邦以外の强國に在りても同じく支那開發を以て緊要の事と爲し時に臨み機を測りて之に手を下さんと企てざるなし、故に我邦にして一朝懈怠あらば他國の爲に先ぜらるゝと或は免れ難き所にして此點に付き我邦は能く支那開發の大事業なると共に競爭者の頗る多く懈怠の甚だ戒むべきを知つて深く備ふる所なかる可らず、漢口駐在山崎領事の報告にも北淸事變後近き二三年に於ける歐洲諸强國の支那に對する諸般の經濟的計畫は非常なる速度を以て其步を進めつゝありとて楊子江流域に於ける獨逸の經營宜昌地方に於ける佛國の施設を

報告し來り米國人は湖南に於ゐて注目すべき企業を爲しつゝあり斯の如く支那の版圖は世界の注目點となりし以上本邦人が支那開發者は我を措ゐて他にある可らずと誤解せる間に夙く列國の爲に先ぜられて我は唯だ後塵を拜して已むとなきを保す可らず、從來の形勢に徴し近日の公報私報に照せば列國が各々支那の富源を吸收するに勉めつゝあるは愈々益々明白にして顧みて本邦人の支那經營を思へば寥々として見に足る者なし、余輩の所謂支那開發とは單に富源發掘遺利吸收のみを指すにあらざるも富源發掘遺利吸收も亦た開發の一事業たるに相違なく米人が鑛山を有すれば米人に勢力を與へ英人が鐵道を有すれは英人をして勢力を得せしむ、斯の如きもの多きを加ふるに從ふて開發の結果は最も多く事業を爲しつゝある所の國民に歸するは當然なり余輩が精神的敎化を嫌ふて物質的敎化を勸むる所以亦此に在るものにして精神的敎化は學問の如き宗敎の如きを以て訓誨するを得るも物質的敎化は現實の行動を示さゞる可らざるが故に勢ひ工業の如き農商業の如き手之を提へ目之を視るべきものなるを要す而して此の尤も緊要なる物質的敎化は近來經濟的經營として現れたる外人の行動に由つて着々呈示せられたり、斯の如くんば我は終に他の後塵を拜して已むに畢らん豈に遺憾ならすや、故に言ふ支那開發は大事なり、大事なりと雖も用意は目前に始められざる可からずと

滿韓交換の謬想

我國の政客中滿洲を露國に與へ韓國を我邦に收めんとの說を爲す者あり多少世人の傾聽を博するのみならず國家の元老として尊重せらるゝ人の中にも之に左袒する者ありと聞く余輩は先づ其事の奇怪なるに驚き滿韓交換の事が何如に不道理にして國家を害するの甚しきかを說きて世人の惑を解かずんはあらず、抑も朝鮮の獨立を扶殖すとは日本が廿七八年戰役を興せし根本の主旨にして我邦は常に韓國を視るに一獨立國を以てし之が存立を危くする者は日本が韓國を扶くる所以の主旨を破却する者として之を排擊し來りたり然るに今ま自ら韓國を己れの手に收め箕子千年の山河を以て日章旗の下に置かんとするは是れ自ら己れの面目を蹂躙し己れの主義を沒了する者にあらずや況や之を以て滿洲との交換條件と爲し共に他國の領土を以て己れの利益を濟さんと欲するに於てをや、日本にして韓國を併有せんと欲せば古來其機會決して少からざりき然るに今に至りて更に侵略を謀らんとす陋劣の極と謂ふべし

外交は臨機のものなりと云ふも斯る沒主義の擧は徒に我邦の輕忽を表白し近く締成せられし日英同盟の主旨にも反するものなるを思はずや、且つ夫れ滿洲は如何なる處ぞ愛親覺羅氏發祥の根元にして淸

廷が寤寐にも忘れざるの地なり日本が廿七八年戰役の代償として遼東を略取せしは偶々是等の深因緣を忘却せしものにして苟も清廷の見地よりせば四百州の天下假令其主を易ふるとあるも滿洲の一局部は飽く迄之を保有せんと欲す故に三國干涉して遼東還附を我に迫り能く其目的を達せしは一に支那が祖先墳墓の地を愛するの情に投じて成功せしものにして支那は祖先の塋域を保有するが爲には如何なる大賠償をも敢て辭せざる者なり、今にして考ふれば日本が遼東を還附せしは國家の深辱たるに相違なく當時寧ろ遼東割取の途に出でず償金の數額を多くするか或は臺灣の如き尙ほ他の土地を選で之を領有するの計を取らば初より支那の感情を害せずして已たるべきを信ず、今日支那が露國を忌憚する所以は露が旅順大連の如き祖先發祥の地に近き處を占有せるが爲にして日露兩國の勢力が支那に於て相消長する所以、滿洲に近づくと否とに關するもの多きを知らん、滿洲の一地が斯の如く支那に愛惜せらるゝ所以を思はず之を以て露國に讓ると云はゞ是れ日本は支那より見て前の虎豹にあらずして後の豺狼たるもの、支那開發は本邦人の天職にして又當今の趨勢なり而して近來彼邦の有力者が我に信賴するに至りし所以は日本が文を以て武を以て常に彼を啓導するの本意深く支那有力家の知る所となりたればなり、然るに今ま彼が最も愛護する所の滿洲を露の略有に任せ我れ自ら獨立を扶植すと聲明せし韓國を呑噬せば我邦が從來力を竭して清韓の爲に企圖せし所のものは凡て譎詐欺瞞の心に出でたるものと思はれん斯の如きの不利豈に復之あらんや、若し夫れ輕輕に考ふれば韓國の興亡は支那に於て痒痛相關せざるに似たりと雖も其實大に然らず韓國が興亡し休戚する所以は遠からずして支那の國家に波及し來ると何人と雖も察し得べき所、則ち我は一指を韓國に染むると同時に韓よりも更に大に更に優等の國民を有せる支那に對して全く和親の道を缺くに至る、或は韓國併有の一事にして一點我の念頭に存せば尙忍ぶべし全然考へ及ばざる所の題目を執り來つて世衆の視聽を惑かんとす國家を害し人心を蠱惑する者にあらずして何ぞや、余輩は此等の問題に關し我邦有力の政客が其言動を愼まんことを欲すると共に一般の國民亦た熟圖愼計漫に沒主義の言論の爲に動さるゝなからんことを希望せざるを得ず

第四編

惡教育の結果と支那開發

日本の教育は其方針宜しきを得ざる爲め今日は早くも教育の弊を感じつゝあり實學は發達せずして空學發達し學者は理想に馳せて現實の働に疎く學生は實學を修めんとして其果して世に容れらるゝや否やを危み相率ゐて空想家の門に趨き、世間も亦理窟の人を歡迎して物質的の人を悅ばず學問とは理窟

を並ぶるの術にして現實の働を爲す者は氣品卑しと爲し哲理法政を修むる者は世に稱揚せられて農工理化を學ぶ者は工匠の類と併せ觀らる、故に學を修むる者は產を破り空想に熱中し不平輒軻學問の爲に薄命の人となり幸福と學問とは多く同處する能はず、抑も學問は人生の不幸を減じ秩序を正し懸隔を少なくするの道なるに拘らず我邦の現狀を見れば正しく之と反對にして之が爲め不幸の人を多くし横議を多くし平和を擾し罪人を增し惡風を助長し遊民を跋扈せしめ着實の士をして學者を厭はしめ轉た世間をして學問の毒を感受せしむ、試に近來我邦に現出せられたる騷擾の中稍々複雜の種類を執つて之を檢すれば大抵皆惡教育の弊より出づ、而も是れ政府をのみ責む可らず民衆をのみ咎む可らずと雖も其害毒は國家全躰の上に被るに至る、國家全躰の上に止まるは尙ほ忍ぶべし外國にまで及ぶに至ては忍ぶべからず嚮に現出されたる本邦在學の支那學生横議問題の如き公使と學生と曲直孰れに在りしかを問はず支那人の行動として稀有の例なりと謂ふべし、固より支那にも反亂はあり長上に對する抵抗はあり然れども其等は暴徒亂人の擧のみ良家の子として學生の身として是等の事ある寧ろ驚くべきにあらずや、余輩は是等の事例が偶々日本に於て開かれたるを悲む而して更に細視すれば彼等をして是等不穩當の擧動に出でしむるに至りし所以に就ては本邦人全く責任を追るゝ能はざるを知る、支那學生年少く頭腦未だ堅からざるの身を以て滿眼皆新なるの異域に遊び其交る所は彼等より多少新奇

の學問を修めたる者多きを以て彼等が之を喜び其言ふ所を傾聽するは自から免れざる所ろ若し彼等が歸國の後派遣學士として支那の天下に尊重せらるゝ時彼の餘弊を受けたる教育の趣旨を以て之を本國に傳播せば其結果や日本を苦めたる惡教育の爲め更に支那をして同一苦楚を嘗めしめ施ひて日本派遣學生に對する彈斥となり日本に對する信賴心の減少となり終に支那開發の妨害となり支那開發に從事する日本人を擧て國外に放逐するに至る亦知る可らず、斯して一たび過てば復び手を下すに難く而も其本我れの罪に在りとせば余輩は支那學生が我邦惡教育の弊に感染するの頗る怖るべくして當局者が早く弊源杜絕の道を講ずるの頗る急切なるを感ずるなり

代議政體論と支那開發

支那開發は急激なるを避けざる可らず又强行するを避けざる可らず我邦の少壯にして思慮淺き徒が歐西に行はるゝ理論學說を執て直に之を支那に試みんとするが如き亦最も警戒せざるを得ず、支那開發は淸書にして手習にあらず故に一たび書損すれば其過ち永久に恢復し難し然るを我邦にてすら利害の明白ならざる歐西の理論學說を執て支那に試むるか如きは不親切の極にして萬一失敗あらば其過ち永久に恢復するを得ざるのみならず後の開發者をして手を着くる處なきに至らしむ、代議政體論の如き

我邦の少壯淺慮の徒が必ず支那に試みんとを欲すべき所のものにして十八省に大選擧區制を布き無記名投票を以て選良の事を行はしめんとするは彼等が日夜夢想しつゝある所ならんも支那は姑く措き日本すら代議政體の爲に何程の効果を收め得たりやと言へば大政黨の横暴政事家の腐敗風儀の壞亂浮薄心の增長を外にして耻しながら贏得たるもの多きを得ず、或は賄賂の贈遣を甚しくし或は詐瞞籠絡の術を奬め而も一方に於て眞に民衆の利益となり民意の通暢を見たる者と言へば豫想に比して其僅少なるに驚かざるを得ず勿論其の此に至れる事情を言へば國民智識の幼稚なる道德の發達せざる其他種々の理由あるべしと雖も國によりて情態を異にし歷史を異にし成長の程度を異にするを思はず一概に代議政體ならば總て可にして君主專制は皆不可なりと爲す者は共に語るに足らず、而して先進の日本すら餘り多くの効能を受けざりし此代議制度を以て直に支那に行はんとするは無法の極にして日清戰爭の當時李鴻章の許へ達せし報告にも日本にては烏合の徒を以て政事を行ひ爲に上下隔絕し物論横議多くして反目爭鬩維れ日も給らずとの意味ありしと云ふ今日より見れば孟浪杜撰一噱にも値せずと雖も亦以て如何に代議政體なる者が支那に了解せられざるを知るに足る、縱し了解せられしとて之を行ふに不可なれば强て行ふの必要有らざる已ならず之を言ふすらも戒愼せざる可らず、此等の點より見るも支那が動もすれば日本の好意に背き露國に傾かんとするは露國が君主專制にして統治の狀態支那

に相似る所あるを好む爲なるを察知すべし、然るに本邦人此邊の消息を咀嚼し得ず日本は義國にして露國は豺狼の國なり支那の愚なる己れの血肉を殘害せらるゝ豺狼に親みて義國の好意を看過するは奇怪なりと憤慨すと雖も支那より言へば其版圖の尨大なると露國の口實の巧なるが爲め所謂血肉を殘害せらるゝの苦痛は爾程にも感ぜず却つて日本の如き年少にして生意氣なる國體に化せられ了つて理窟の蒼蠅き代議政躰國となる方遙に怖るべく憂ふべしと考へ居るやも知れず、之を是れ思はず漫に代議政躰を支那に布き議員を四百餘州より選出せしめて歐米に愧るなき大國會を作り先づ豫算を議すれば官吏の收賄も減すべく次に法律制度を議すれば空文徒法の弊を除くべしと考へて此等の議を當路に献ずるとあらば忽ち亂臣賊子と目せられて支那開發は終に成なさに至らん、故に支那には支那の國情あるを思ひ眞に之が改革を圖る者は實際の國情に基ける改革を爲すにあらずんば終に何等の結果をも得ず、余輩は我邦の少壯士人に對し深く此等の注意を望まざる能はず

支那學生の行動

明治三十五年七月本邦在學の淸國學生其入學保證の事に關し本邦駐在支那公使蔡鈞氏に迫り不穩の擧ありしとあり本論は之を論ぜしもの

在本邦の支那學生が其入學保證の事に關し同國公使蔡鈞氏に面し何等か談判する所ありし由は過般來之を聞けり、是れ支那人の擧動としては頗る意外の事と謂ざるを得ず支那の風習として官民の相隔絶せると非常にして特に公使と學生と云ば一方は言迄もなく駐在國の最高官たり一方は其中假令名門貴冑の子ありとも年齡に於てすら到底相頡頏すべきにあらず此等の點は他國人の想像し得ざる所にして本邦の在外學生が其留學地の公使を叩ねて相談するが如きと日を同ふして語る可らず、然るに此の相隔れる學生が公使に向ふて一朝の行違ひより忽ち反抗の態度を爲せしは縱し公使に於て多少不親切不行屆の所以ありしにせよ從來の支那官民間の歷史に照して異常の事と稱せざるを得ず況や其邦の風習年長者を敬し長上を貴ぶと他邦に超絶せるに於てをや、因て思ふに彼れ學生の徒は多少其儕輩に挺づる所の者にして年少氣鋭の一點に至りては是亦支那人中に在りて稀に見る者なるべし然るに我邦に來學し斬新の人文に接し斬新の理論を聞き未見の地を踏み未知の人に逢ひ一面には其見聞を擴むると共に一面には其血氣の抑へ難きを來し、父祖以來養はれし長幼有序的の風敎は之を迂腐と爲し只管日進の學術に心醉し一旦豁然として大悟(?)すれば今迄己れが身邊を圍繞し己れが頭腦を支配せし主義思想は總て今後の世界に應用するに足らざるが如き感想を發すると共に從來己れの邦に行はれ來りし秩序風習の遵奉するに屑からざるを思へば公使の如き一官吏が己れを支配するの忌々しさに堪へず事あ

れば此心則ち爆發せんとして今日まで鬱勃しつゝありしにあらざるか、假令斯の如くならずとも幾分か之に類似せる思潮の彼等一輩の間に横流せるものと想像して大過なかるべし、然らずんば他の平穩なる手段に賴つて訴へ得べき徑路決して少からざるにあらずや、而して此の思潮の横流は之を支那全躰の思潮の變化を指導すべき者として歡迎すべき歟と云へば余輩は大局の上より見て決して然らざるを認むるなり、支那開發は日本人の手を以て爲すこと彼我の爲めに便利なるに由り我國民は先づ其第一着手に注意し永久に涉りて圓滿の成績を擧るを期せざる可らず、而して支那が其群生中より撰拔して養成を我邦に托し來りし學生間に先づ斯る粗暴の氣風を生ぜしを見ては余輩支那當局者が學生の日本派遣を以て如何に無益にして且つ危險なるものと認めんかを恐れざるを得ず曩に淸國公使蔡鈞氏が學生の日本留學を阻止せしやの說ありし時本邦人中淸國公使館に迫て詰問に及びし者ありと云へり、是等は兩國間の交情を害するの最も大なる者にして殊に支那が日本に信賴せる其好意を挫く者と謂ふべし、思ふに支那學生も斯る事の爲に不知不識の間に惡感化を受けて粗暴の振舞あるに至りしにはあらざるか、余輩本邦人中の識者若くは支那學生を監督せる人々が深甚の注意を加へ彼等をして今後復び斯る擧動を演ぜしめざる樣取締らんことを希望せざるを得ず

第五篇

漢學復興の必要

支那は世界の市場たるべき邦なれば之を占むる者は勝ち占めざる者は勝たず而して之を占むる者は何れの國と云はんより日本自ら之に當るこそ至當の責任にして又最も便利なり占むるとは征服の謂にあらず先づ力を注ゐて之を扶掖し之を指導して永く其面目を保たしむるの意味にして如何に今日の灰殼者流と雖も支那が本體を保ち得ず四分五裂の有樣となりて歐米の勢力が直に我が一葦帶水の隣に迫り來るを以て好兆なりとは信ぜざるべし、則ち支那を占むるは獨り支那自身の爲に可きのみならず日本の爲にも亦頗る必要の事なり、然れども支那は假令我隣接にして彼我の交際頻繁なりと云ふも元と是れ他國に對する事業なり自から其順序方法を考へざる可らず、近來支那より學生の來學する者多く鎭國將軍及び吳汝綸氏の如き名士の來朝せしなど皆な支那が日本に依賴し來りし明證にして我邦は此好機會を利用して大に支那扶植の道を講ずるにあらざれば必ず悔を後日に貽さん、顧れば我邦は支那と文字を同ふし隨て思想も相似たる處少からず是れ此志を達する最良の點にして譬へば仁義の敎は古より我邦に存在せしとするも之を文字と爲して人に敎ふべからしめたるは支那學の賜なり然らば宗敎も

彼我共に佛敎なれば差支なかるべしと云ふも今や支那の佛敎は沈淪の極に在りて之を以て進入するの道と爲すべからず殊に佛以外の宗敎も支那に行はるゝとなれば効力隨て薄弱なり此點に於て孔子敎は絕大無限の感化力を支那に有するがゆえ我邦人は最も得意なる漢學の素養あるを利して彼と相提携するの道を作るべし、漢學が我邦に行はれしや年代頗る久しければ國民多少漢學の力あらざるはなく又た少しく漢文章に慣れし者あらんには筆談にても彼我の意を通ずるに足る、從來漢學が世に疎まれしは漢學の無用なるにあらずして漢學者其人の迂濶頑愚にして僻見を抱ける者多きが爲めなりしも苟も眞の經綸あり眞の見識ありて漢學を修むるに於ては何の差支あるべき、我は當に我の最も得意にして支那感化の力最も强大なる漢學の力を以て此の大經綸を實行すべきなり、豐太閤朝鮮征伐の時或人漢文を善する者を隨ひ行くべきを勸めしに太閤は否我當に彼をして日本化せしむべし何ぞ漢文の要あらんとて之を拒絕せしは人の知る所なり是れ兵略的占領の場合には言ふとを得べきも浸漸的感化的の場合には到底法る可からず且つ其奏効極めて遲緩なり余輩は此心を以て大に我邦に漢學を復興せんとを勸告す

再び漢學復興に就て

余輩が漢學復興を唱ふるは恐く世上一般の人々をして怪訝に堪へざらしめしなるべく之と同時多少支那通を以て自ら任ぜるの士をして疑ふ所あらしめしなるべし、然れども敢て說の奇を衒ふにあらず又支那開發を唱ふるが爲め無意味に漢學復興を聯想せしにもあらず聊か亦說あるなり、支那の時文が唐宋以前の文章と異るは事新しく言ふを要せず隨て其用途は唐宋以前の文章と異るべきは論を俟たず然らば寧ろ時文を學んで日用に應ずる方便益ならずやとは何人も想ひ到る所なるべし余輩固より時文を捨てよと言ふにあらず餘力ありて之を學ぶは下流の支那人と交際通信するに於て便利なること無論なり、併しながら支那開發の事は下流より始む可らず先づ其上流權門の人と相親むにあらずんば手を着くるを得ず支那の階級制度の嚴重なるは日本の封建時代に比して遙に其上に在り例へば各省の總督及び之と同格の士に對する一般人民の尊敬は我が舊幕時代の農工商が諸侯に對するよりも厚きものあり故に支那の事情を西洋風に考へ多數人民の心を得ば萬事成す可しと思ふは誤れるの甚しき者にして假令辛苦經營萬人の信望を博するも一たび上流權門の嗔に逢はゞ復た爲すべき所なし故に開發者が支那の下情に通ぜんとするは決して惡しきにあらざるも其上流に向ふて後援を作ると却て必要なり、是に於て其時文を習ひ衆俗間の交際通信に便ずるより寧ろ古代の經史を修め所謂聖賢の學を以て進むと上流の信望を得るに効力の多きや明なり況や時文を習ふに方りても漢學の力を要すると固よりなるに於

てをや、世上屢〻漢學の力は今の支那に臨むに何の効力なしと論ずる者ありと雖も其は支那の下流社會を觀るが故にして彼れの上流若くは官邊の文書を讀むに漢學の力に待たざるは彼れの實情に通ずる者の認むる所ろ、勿論支那文の中には猪の字を我邦の豚の字に代用し鎗の字を我邦の銃に代用するが如きと少からざるも是等は少々の練習にして忽ち通曉するを得べく彼邦の進士が科擧の制に應ずる時の文章の如き亦た漢學の力ある本邦人には容易に讀過し得らるべし詩賦の如き亦然り支那の詩は音律に據るが故に其調に於て彼我同からざる所あるも、さればとて支那の名作が日本の惡詩となるが如き例は之あらず、故に言ふ餘力ある者は時文固より習ふべし但だ支那開發の爲に便せんとせば古學を修むるの要甚だ多しと、

三たび漢學復興に就て

漢學復興が支那開發の爲に必要なる所以は支那の上流權門と親むに在ると前篇既に之を說けり、要するに支那を開發するに上流より手を下さゞる可らざるは少しく支那の事情に通ずる者の皆首肯する所にして此主義に反するに於ては成功殆ど期す可らず而して其實例は歐洲人の爲す所を觀て明なり、彼等は基督敎を以て支那の下流より化し初めんとせり而して下流の中には實に之に化せられて堅固なる

信者となれる者も少からざりき、然れども元と是れ下流のみ政權にも金力にも兵力にも名譽にも總て緣遠き者なり斯る者共が縱や幾十萬人ありとても何事をか爲し得べき殊に階級制度の嚴重なる支那に於ては大勢の上に些の結果をも與へざる已ならず暫時の後には其上流者則ち政權あり金力あり兵力あり名譽ある者の爲に一睨せられ土崩瓦解復た收む可らず、勿論其信心の痕跡は多少後日に殘留すべしとするも是れ個人の信心のみ開發的事業となりて現實の効果を支那の國土に留めんこと決して望み難し、況や之が爲に外敎排斥の團体則ち義和團の如きを激成し宮廷の上すら或は之に左袒せらるゝに至る、彼の義和團にして根柢薄弱の者ならんには曷ぞ彼が如き大亂を作すを得べき、余輩は思ふ支那敎民の信心或は堅固なりしならんと雖も之を義和團の信心堅固なるに比すれば數籌を輸するとなかりしか、義和團の終りや外國軍の爲に敗れたりと雖も其と同一根柢に立てる者全然迹を絕てりと謂ふを得ざるは亦以て義和團及び之と同一臭味の輩の意思鞏固なるを窺ふに足るべし、歐洲人が宗敎を以て支那に入り屢〻之が反抗を受けしは彼等が一時の野心則ち宣敎師の生命を餌にして土壤を釣り鐵道を釣り鑛山を釣り償金を釣るの手段を滿足せしめ得たるべきも一方に於て精神的敎化を以て他國に進入するの如何に愚劣にして又支那を開發するに下流よりするとの如何に無効なるかを確的に立證せし者にあらずや、日本人既に此の前轍を目前に見つゝ何を好んで後車の覆るを求めんとはする、是れ上流權

門に親むの道則ち漢學の力を要する所以也

漢學の力を要する所以のもの尙ほ有り、漢學の日本に入りしより玆に二千年、漢文字は則ち日本文字となり百般の事物總て漢文字を以て記せざるものなく剩へ敎育の隆興と共に字を知らざる者の數は支那國民に比して遙に少なし、則ち漢文字は日本人の最も得意とする所のものにして支那の全國民と日本の全國民とを通じて言へば漢文字の最も流行せる邦は支那にあらずして日本なりと謂ふを得べし、國民既に此の得意のものあり之に由りて進むの利益なるは復た絮說を俟たず、否な之に由らずんば支那國民は寧ろ歐米人によりて開發せらるゝを以て利益なりとせん、是れ本邦人が好んで支那に於る己れの勢力を耗失する所以にして愚の極なり、然れども頃日聞く所に據れば露國人中には玆に着眼せる者ありて夙に漢文を研究し漢籍を輸入し漢文の機關新聞をすら發行せんと計畫する者あり其政府亦一臂の力を假さんとすと云ふ本邦人たる者勉めずして可ならんや

時文を疎斥するにあらず

余輩が支那開發に漢學復興の必要なる所以を說くや世間には余輩の言ふ所を誤解し支那時文の學習を不可なりとするの意と爲す者あり是れ遺憾の事にして前にも言ひし如く餘力あらば時文を習ひ日常の

第五編　時文を疎斥するにあらず

文書往復に便にするの道を講ずると固より人々の隨意にして毫も之に反對する者にあらざる已ならず彼れの庶人に交り商業を營む人の如きに在りては時文の學習會話の修錬は最も必要ならざるを得ず、然れども余輩の所謂支那開發とは彼の庶人に交り下流と相通ずるの謂にあらずして支那全躰の風氣を一洗し之をして存立の基を鞏固ならしむるに在り此目的を貫徹するが爲には前來論議せし如く彼れの上流より入らざる可らず上流より入には古學を以て可とす是れ余輩が漢學復興を謂ふ所以なり、余輩が支那開發を唱ふるは日支兩國を打て一丸と爲さんとするものにして兩國の人衆繁く相往來し若くは我より進て支那化するの覺悟を爲を要するに當り最も深く彼の風俗人情を解するは必要復た言ふを要せず則ち時文を學習するは是が好方便にして平民的に支那に入るは日支相和するの道たると明なり、余輩は曾て支那の事情に精しき人の談話を聞けり曰く支那の上流には支那語を知り時文に通ぜざる方却て大人視せられ、支那語に精しく時文に通せる者は事を辨ずるに便利なる代り彼の國人に輕視せらるゝを免れずと、則ち知る上流より入つて支那開發を爲さんとする者の爲には古學を研究するを以て最も必要と爲し時文は縱へ之を知るも其能を隱すに於て寧ろ彼國上流の尊重を來すべきことを、是故に余輩は時文の學習を疎斥するにあらざるも時文は自ら時文の用途あり時文なるが爲に如何なる場合にも皆貴重なるにあらず隨て時文を要すべき人則ち支那人を相手にせる商人の如き其他彼れの庶人と往

來するを要する人に在りては文章言語凡ての錬習を可とすべきも彼れの上流より入るべき人に在りては時文を學ばざるが爲に何等重大の不便ありと謂ふことを得ず、試に思へ我邦に聘せられし外國教師の中日本語に通じたりし者幾人かある、ボアソナード博士の如き我邦に在ること三十年にして尚ほ寒暄の挨拶すら日本語を以て爲し得ざりき而して我國人を教へ及び其の尊敬を博するに於て何の故障をも見ざりしにあらずや、余輩の言ふ支那開發は支那を指導するの謂にして支那に指導せらるゝの心にあらず故に方便の上より見て彼の風俗習慣に通ずるは可なりとするも指導者たるに必要なる尊敬心は必ず彼れをして拂はしむるを要す、是れ徒に威福を弄し倨傲尊大ならんことを欲するにあらざるも尊敬せざる人の手よりして開發せられんと希ふ者は天下未だあらざればなり、之を要するに時文の學習は大に可なり唯だ之よりも尚ほ先にすべき者あるを忘るべからず、余輩は既に「支那人となるの覺悟あるを要す」るの意をすら説明せり曷ぞ時文を疎斥する者ならん讀者過るなくんば幸なり

同教國の實を示すべし

我邦と支那との交道を表彰するもの脣齒輔車と曰ひ同種同文同教と曰ふ而して脣齒輔車も同種同文も皆な人の目睹する所にして疑を挿むべきものあるなし唯だ同教の一事に至りては人能く之を究めず漫

然として口にするのみ、余輩は支那開發の道として復古主義に據るべきを說き漢學復興の必要あるを述べたり而して日支兩國の同教たるが爲に此二者の益々勉めざる可らざるを知る今や孔子敎は支那に於て一の宗門たり佛敎の支那に衰てより支那國民の尊敬の標準たるものは實に孔子敎なり孔子敎は支那に於て弊なきにあらざるも是れ敎徒の罪にして敎の咎にあらず能く之を咀嚼し能く之を消化する者あらば孔子敎は利ありて害なし而して利の多きを見て此較的害の多からざりしものは日本に於ける孔子敎なり賴山陽曰く仁義の道は上古より日本に在り唯之を文字と爲して後世に傳ふべからしめたるものは儒學の功なりと、固より邦人の忠愛道義に厚き儒學の力を待たずして萬國に傑出するものありと雖も若し儒學が傍より之を扶掖するにあらずんば奚ぞ今日高義の邦として世界に知らるゝに至らん、啻に今日のみに止らず中世には文物制度の成を助け元慶假武の後は能く封建の秩序を保ち兼て文學の隆興を致せしもの儒學を措ねて他に之あるなし、故に邦人先天の忠孝あるを知つて他より之を翼賛せしものあるを知らざるは尙ほ禾種の重ずべきを見て栽培施肥の功を知らざるに同じ、本邦人の氣格支那人と同じからざるが爲に能く孔子敎の利を受けて其害を受くること多からざりしは今人の父祖に向ふて須く感謝すべき所なると共に孔子敎を咀嚼消化し得ざるが爲め一種中毒の病者となれる支那國民を化して其善に遷らしむるは最も道の可なる者に非ずや、支那國民は孔子敎を咀嚼消化し得ずとも

之を尊崇するの風習は有り我は之を迷信せずして眞に咀嚼消化したり則ち兩國民を通じて心靈の機微を維ぐものは正に孔子敎其物に在り、敎義の人心を維ぐや其力偉なり歐米の各國國每に風尙を異にし利害を別にすと雖も一たび基督敎國民の旗幟を建つれば皆翕然として相集り一人の敢て違ふ者なし白人が小異を捨てゝ大同に就かんとする時輙ち基督敎國民と號するは實に之が爲にして此旗幟一たび建られば他の種々の類別は殆ど其力を喪失す、邦人が支那開發に手を下す亦旗幟を用ふるに留意せざる可らず而して其の最も可なるものを孔子敎と爲す孔子敎は日支兩國民の連鎖にして他の唇齒輔車と曰ひ同種同文と曰ふより其力强靭なり

山東省曲阜縣に孔子の廟あり賽者常に絕へず香煙空を蔽ひ支那國民の之を尊崇すること意料の外に在り、今ま本邦人同敎の國民を以て支那開發の事を成さんとする須く先づ同敎の實を擧ぐるを要す同敎の實を擧げんとせば彼の尊崇する所我亦之を尊崇せざる可らず支那に之くの士は必ず曲阜の孔廟に詣り先聖の德を謝すること猶ほ基督敎國民がジェルサレムの靈域を訪ふて其信仰を告白するが如くすべく、內地には釋尊を奧し支那國民の在留する者を招きて共に先聖の靈を祀るべし、而して是れ徒に一種方便的のものにあらず十字軍がジェルサレムの靈地恢復を標榜して起ること前後八回殆ど二百年に亘り老幼婦女亦役に從ふ其目的終に達し難かりしと雖も之が爲に歐洲各國民一致の情誼を起すの基とは

なれり宗門の人心を維ぐ斯の如き者あり、況や孔子教は本邦に在りて道義涵養秩序維持の大綱なりき本邦の薫化永く之に賴りたるの後ち今に至りて復た用なしとして弊履を棄つる如く冷然忽ち變じて臣子の典型迹を留めざるは堂々一國民の態度として果して如何、器械工藝に新奇を競ふは可なり曾て理想の標準道義の根元として尊崇せし所のもの一朝煙散霧消するは國民を擧げて輕佻浮薄の兒と爲すものにあらずや、形式は徒爲にあらず誠意は形式を作り形式は誠意を起す余輩は日支の兩國が同教の邦たるの實を示すが爲に孔廟賽詣釋奠復興の必要を認むると共に本邦道德の故を存留するの道として其最も力あるを見る、形式豈に徒爲ならんや

第六編

支那開發は永久的なるを要す

支那開發の要は國民をして心を一にして此大經綸を行はしむるに在り隨て其進行苟も輕卒なるを許さず、本邦人の習ひとして動もすれば計畫の遠大を缺き今年種子を下して明年直に收穫せんとするが如き希望をのみ有するも斯ては五十年百年の長計を建つるに慣れたる歐米人と相競ふて國家の根柢を鞏くすると到底覺束なし、言ふ迄もなく日本が將來大に發達を遂げんとするには今の境城にのみ蟄伏し

つゝありては何事をも爲し得べからず去ればとて事端を外國に啓ゐて煩累を招くが如きは策の良き者にあらず、是に於て先づ大面積を有する邦を撰て與國と爲し之と並び立て前途の隆榮を圖るを以て第一義とす、隣國支那は此點に於て望を充たすに足る者にして其土壤の廣き其人民の富裕なる其人文の幼稚なる其民情の一種特異にして歐米人の窺ひ知り得ざるなど皆我最良の與國たるべき資格あり殊に支那國民は近來我邦に信賴するの風あり其名流縉紳も我邦の制度文物を視察の爲め來朝するが如き明に日支兩國が相提携すべきの緒を爲せし者にして我國は一面には支那の先輩となり師父となり一面には前途本邦人が其發展力を試むるの場と爲さんとに鋭意するを要す、斯くせんには到底一時的の計畫を以て希望を遂げ得べきにあらず子孫の末まで能く旨を傳へ極めて永久に進行すべく則ち將來に於て日本と支那とは殆ど同一國たるの實質を具備し歐米に對して自から東亞の事局を料理し他人の干渉を容れさると猶ほ合衆國が南北兩大陸の事を自から處置して歐洲の何れの邦にも容喙せしめざるが如くすべし、或は其間支那が復又た難を外國に搆へ割土償金僅に平和の克復を得るの不祥あるべく是等の爲に異國たる我邦の煩ひを惹起すこと少からざるべしと謂ふ者あらんも是れ支那政府と外國政府との交渉にして國民各個に在りては何の關係あるなし余輩の言ふ所は公文的吏務的の與國を作れと云ふの意味にあらずして國民各個支那開發を以て心と爲し國運的民力的に與國となれと云ふの主意なり然れ

ども國民の對清事業には其背後に政府の後援あるべきと勿論にして猶ほ今日朝鮮に本邦人の在留する者多く日韓の關係密切なるも其事は民力的にして政府は唯だ國民の後楯と爲りつゝあるに同じかるべし、而して是に至る迄の途中は頗る遼遠にして國民一致永く盡瘁するにあらずんば其功を收め難し、勉めざる可らず

支那開發は分業的なるを要す

國家の生存を鞏固にするの上より支那と相結ぶの必要を悟りし以上は之が實行上の注意に關し深く研究する所なかる可らず、抑も我國民に比して其下位に在る支那國民を開發するは一見極めて容易なるが如くなるも其實然らず彼れの民性は頑冥固陋にして保守的なるを以て所謂開發なるものゝ第一着手を誤れば彼等の眼中には倭人陽に開發を唱へて中に禍心を包藏し中華をして夷狄の邦と等しからしめんとすと映じ來らんと必せり故に一たび其民心を失へば之を恢復せんと容易にあらざる已ならず開發着手の前よりも却て不良の狀態に陷りて復た救ひ難し、故に此任に當る者は初より深く注意する所ろあるを要す、我國民は支那國民に比すれば變通的なるも其れすら往古歐洲人が來りて宗教的に我國を化せんとせし時其手段を誤りし爲め我國民の厭惡を買ひ德川氏も大に外人を疎外して一時絶對的に之を放逐し維新の際にも所謂攘夷思想の爲め少からざる妨害を國運の上に受たり況や支那國民の性質彼が如くなるに於て開發を試むる者深く此點に留心するを要す而して此方針を誤らず能く成功するの道を考ふるに開發の方面に隨ふて種々の人物を要すると共に其人物は皆一方の專門家にして各々得意とする所を分擔するの組織ならざる可らず、若し然らずして支那の國土人民を輕蔑し又は己の小才智あるを恃み二三種の事業を兼營し當分馬脚を露はすとなかるべしと安心せる間に其の門下たる支那人は案外に進歩して師たる者の技能甚だ優等ならざるを看破し一方には開發者が其兼營の部分に生ぜし困難を處置すると能はず一旦失態を露はせば即ち是れ開發事業の最期にして我に對する彼れの信用は全く地に墜ち施ゐて他人の領域にまで損害を加ふるに至らん我邦開國の際平凡なる技能を以て厚俸を受けつゝありし外國人は其後我邦の進歩漸く著しきに隨ひ其價値を落し來り本國へも歸られず終に藝人などの群に入りて糊口の道を求め居る者すら少からず、又た外國宣教師の輩も開國の頃には布教の方便として傍ら醫術等を營みし者もありしが是れ亦本邦の文物整頓して怪し氣なる彼等の技能に須つを要せざるに至りしより今日にては宣教師の兼業全く其迹を絶つことはなれり、支那開發の任に當る人々も能く此道理に鑑み假令或る一技一術に就ゐて非常の才智技倆を有せざる迄も二種三種の事を兼營して敢なく馬脚を露はさゞらん樣心懸くべし、萬一非凡の人ありて二道以上に熟達せば頗る好都合な

りと雖も是れ千萬中に一二あるを望むべく一般の論理とは爲す可らず、余輩は開發の氣運を挫くの害畏るべき者あるを思ひ開發者の注意深厚ならんことを希望して已まず

支那人となるの覺悟あるを要す

支那開發は國家の最必要件にして又最も大事業なり之を爲すには國民の一致と永久の覺悟とに待たざる可らず、英國が支那と商業的の連結を作りしは年所頗る久しく今日露國獨逸が支那に入込まんと試みつゝあるも亦長年月の計畫を立てゝ之に從事せり、我邦は支那に近しと雖も支那の國情を知る者は多からず、而も多數の者は歐米にのみ傾意して此の切要なる隣國を忘却するの風あり是れ最も不利の事ならざるを得ず又稀に支那の事情に注目する者あるも所謂今日種子を蒔きて明日收穫せんとする者の亞流なるを以て隣國の事は歐洲人の左右する所と爲りて我は傍觀無爲他の後塵を拜するに過ぎざらんとす、抑も今の國際は取るか取らるゝかの二を出でず支那は各國競爭の場となりて日本が支那まで進出づるにあらずんば外國は支那に迫り來らん、以上は兵略上爭奪の意味にあらざるも我國民の感化力を支那まで伸ばすと他國民の勢力を支那に敷衍せらるゝとは其利害得失智者を待たずして知るべし、而して我國民が眞に此大事を成し遂ぐるの責任あるを覺悟し取らるゝの國民とならずして取るの

國民となるの決心を固めたるの曉に至り能く其覺悟決心を實にし得べきかと云ふに我國民の氣性にては頗る困難なりと斷ぜざるを得ず、其故如何と言ふに我國民の間に支那を輕視するの心ある以上は此事決して成就すべからず我國民にして支那開發に志す者ありとするも唯だ支那人をして日本化せしむる事のみを思ふて自ら支那人となるの勇氣なし、余輩の見る所を以てすれば支那開發の第一着手は寧ろ日本人が支那人に化するに在りとせざるを得ず、清國總稅務司サー　ロバート　ハート氏の如きを見るに其身英人にてありながら衣服を支那にし冠冕を支那にし又誠心誠意支那の利益を圖つて支那の利益に反する者は凡て極力排斥しつゝあり其他獨逸の商人等にして支那に在つて事業を企つる者を見るに殆ど全く支那人に化し了り支那の大官を尊敬し支那の風俗習慣を遵守すると日本人の輕忽且生意氣なると雲泥の相違あり、斯の如くにして始めて支那人の信賴を得支那開發の事を成すべし、思ふに支那の開發に臨んで其四億の大衆を日本化するが如きは其希望の當否は姑く措き策の迂遠にして成功の危き多言を俟さずして明なり、則ち今日本人が却て其一身を擧て支那人に化し勉めて彼れの利益を進むるとき謀らば其文は同種其面貌亦相類する已ならず古來の交通あり近く博取せし戰勝の餘威をも捨てゝ彼れに同化せし精神は必ず彼れの感受する所とならん斯の如き者數十人數百人なるに及びて日清兩國は全く一躰となり玆に東亞の大帝國を形成するを得べし而して其初は日本人が支那國民を化

するにあらずして日本人自ら支那化するの精神を振起するに在るとを思はざる可らず

支那開發に就ての覺悟

支那開發に關し我國民が其胸中に蓄ふべき覺悟に付復た茲に其補遺を記さんに抑も支那開發の一事は一時的のものにもあらず又急激突進の性質を要するものにもあらず隨て本邦人の最も得意とせる兵戰的の事業とは大に趣を異にし寧ろ本邦人に取ては最も不得手なる自然的永久的堅忍的に進行せざる可らず、其手段としては此經綸の趣意に準據せる漢學復興の必要もあり更に支那人を日本化するにあらで日本人が進で支那化する事の如きも亦最も切要なり、要するに從來の日本流を捨てゝ彼の衣食住風俗習慣の末までにも能く熟通し日本と支那とを打つて一丸と爲すの道を作るを大切なりとす然るに今日我邦の人物にして支那開發に志す者の爲す所を見るに徒に支那人を日本化するに努め我れの風俗習慣を以て早く彼國民に移植せんとのみ企つる者の如し是れ着眼の誤れる者にして蹉躓に終らんと鏡に懸けて睹るが如し、聞く所に據るに日本人の事業に成れる學校（支那內地に在る）に於ては日本語と共に君が代の唱歌を敎へ居る由、日本語を敎ふる事彼れ國民の希望に出づるならんには其意に應ずるに於て何等の故障なしと雖も之と共に最も日本流の精神を皷舞すべき我國歌を注入するに至りては深

く考ふる所なかる可らず、君が代の唱歌は其歌詞其曲節最も日本人の崇敬に値する者にして誰人も一たび之を聞けば油然として忠君愛國の心を發せざるなく苟も然らざる者は亂臣賊子と目して差支なきも其は日本人間に於ての事のみ之を支那人に皷吹したりとて何の効力あるべきや、又彼等とても日本の國歌を習ふて其中心に感奮興起し或は其歌詞曲節の妙を感すべきや覺束なきの至と謂ふべし若其等の學校にして忠君愛國の氣を學童に注入すべき歌曲を必要とせば何故に愛親覺羅の天下を謳歌すべき種類のものを撰んで之を採用せざる、若し現在に斯る種類のものゝ見當らざらんには敎員自から支那調を以て之を作るか支那の學者に囑托して之を作らしむるも可なり徒に日本國歌の注入にのみ汲々するが故に保守的なる彼等學童の父兄若くは上流縉紳の間には日本厭ふべしとの念を起こすとなきを保すべからず英國人の經營せる太沽洋行にては其船舶に冠するに「太原」「沙市」「成都」「濟博」「漢江」などの名を以てし船客の待遇も極めて支那人向にして唯だ及ばざらんとを恐るるの有樣なり支那開發に着手する日本人の覺悟には尙ほ至らざる所多きを悟つて大に勉むる所なかる可らず

支那開發に對する獨得の方法

東洋の天地世界の舞臺日支兩國を打つて一丸と爲すは余輩の素志なり、日本が世界の表に雄飛し得る

も支那が其國運を保ち得るも之を措て途あるとなし、是れ日支兩國が一丸となるの必要ある所以にして又日本が支那を開發するの必要ある所以なり、若し夫れ此理由なくんば支那は何國の手を以て開發せらるるとも故障なしと雖も實情は斯の如くなるを得ず、露國をして開發せしむるよりも日本をして之を爲さしめよ英米をして開發せしむるよりも日本をして之を爲さしめよ是れ道理より觀て然り、更に利害の眼より觀るに開發國と被開發國とは其間自ら一條の情意を生ず是れ我邦が陸軍制度を佛に採り獨に採る毎に日佛日獨の間一種他に異るの情意を生じたりしに照して明なり故に露國をして支那を開發せしむれば露清の間に情意を生じ英國をして開發せしむれば英清の間に情意を生ず而して日本の手を以て開發すれば日支の間に情意を生ずる亦言を須たず此情意は彼我相倚て一丸となるの根本にして他國をして指を染めしむ可らず既に道理より觀復た利害より觀て日本が支那を開發すべしと決せる以上如何にせば能く此目的を貫徹し他國をして指を染めざらしむるを得べきか曰く日本獨得の方法に頼るに在り、夫れ支那開發に物質的敎化を要するは余輩の屢〻言明せし所ろ物質的敎化は固より歐米今日の進歩に待たざるを得ず然れども歐米の物質的敎化を其儘に移さば支那は日本を俟たず歐米の手を以て開發せらるゝを捷徑と爲さん此點一たび躓かば日本の支那開發事業は終に望む可らず故に言ふ支那開發は歐米の物質的敎化を捉へ來り之を日本の物と爲して支那に移植するに在り是に於て日本は

日本が支那を開發するは支那の古文明を復興し支那をして古の敎化を受けしむるに勉むる者なるを聲言するを要す曰く今の歐米の文明は其源支那より出づ即ち歐米の文明を移すは支那の古文明を恢復するの心にして日本は支那と相並びて東洋の舞臺を形成するの職責より支那を補導する者なりと、此の聲言をして有力ならしむるが爲には先づ彼れの上流を化するの途を採り、漢學復興の手段を以て彼我親交の便を開き、互に相進で遺漏なきを期すべし、此の數者は日本のみ之を聲言し之を實行し得る所にして歐米の爲し得ざる所ろ、日本の最も得意なる所にして歐米の長せざる所ろ我に於て絶好の道なり、苟も歐米の爲し得る所を以て進まば我れ奚ぞ歐米に若かん而して支那開發に於ける蹉躓の基なり道理より觀利害より觀たる日本の職責は終に完ふせられざるべき也

舊文明の權化

支那開發を企つるに能く支那の舊文明を破壞せず今日の新文明は支那古代の舊文明の權化せしものなりとの意味を以て之を爲すべしとは吾人が前來屢〻言説せし所なりき古へ空海上人の眞言秘密の一派を我邦に弘めんとするや之を支那傳來の敎義と言へば我國人の尊信深きを得ざらんとを慮り之を日本化して以て我邦に擴充せんとせり是に於て本朝の神祇も異朝の佛陀も元と同一體のものなりと號した

り則ち八幡宮に菩薩號を附して八幡大菩薩とせしが如きは空海の創案にして八幡大神は佛菩薩の權化せしものと唱へたるなり是れ空海の知略非凡の點にして是に由りて能く我邦に眞言宗の歸依を博し佛法生地の印度に於ても之が繼承たる支那に於ても其迹殆んど尋ね難きの今日我邦に在りては能く秘密の骨髓を傳ふるを得たるなり、日本人が支那開發を爲すは支那の古文明を蘇活せんとするものにして他物を假り來つて權化せしむるにあらざれば其易きと言を須たずと雖も今日支那多數の國民は今日の新文明と自國古代の舊文明と歸趣を同ふすることを知らず依然支那の文明は中華の文明にして今日の文明は夷狄の文明なりと誤想しつゝあり故に此兩者は唯だ外形を異にするのみ其實質毫も別なきの趣を彼等の裡胸に浸透せしむるか爲には空海の權化法を假用するに於て最も効力あるを信ず余輩が嚮に言ひし如く國各々其誇る所あり若し他より入つて之を指導せんとせば其誇る所を犯さずして之を適合すべき所以の道に由らざる可らず我邦維新の改革が王政復古の標榜によりて爲されし如く支那開發も亦支那國民の誇る所を干犯せずして成功すべきことを謀るは最も策の宜しきもの、苟も然らず他國の人が支那に臨み支那の文物制度教育習慣皆な守舊にして今日に用ふ可らざるが故に一切破壞し代ふるに歐米の文明を以てせよと謂はゞ支那國民ならずとも誰か快く之を肯諾する者あらん、前節に引用せし清國管學大臣張百熙の奏文中にも「古今中外學術同しからず其用を致す所以の道は即ち一」と云ひ「第

だ其（日本歐米）制度を考ふるに亦頗る我中國古昔盛時の良法と大概相同じ」と云へるを見て如何に支那人中の有識者が今日歐米の文明が古代支那の文明と其歸趣の同一なるを認識せんと欲するかを測知するに足らん、今や支那が開發の氣運に向ひつゝあるは世人の洽く知る所ろ支那の宮中すら既に鋭意新文明を呼吸するに努めらる是に於て我開發者が能く余輩の言に聽き權化の說を以て彼を指導し今日の新文明は歐米の專有物にあらずして古聖人の所謂致知格物の發達せるものなるを說明せば假令今後如何なる支障の生じて支那の文明吸收に頓挫を來すとあらんとするも能之を支へて蹉躓なからしむるを得べし、古人の智亦鑑むべき也

第七編

今後の生絲事業

世界の商業が今日の如く進歩し來りし以上は日本の生絲事業家も從來の營業を墨守するのみにては到底時勢に適合せる者と謂ふ可らず、若し日本の生絲にして永く前途に望を繫ぐべきものにあらざれば余輩の此如く聲言するは無要の業に似たるも我生絲は永久に外國の需要を得て今日の如く貴重の國產たるべきに依り當業者が益々奮ふて前途の發展を謀るは最も切要の事ならざる可らず、則ち今日の如

く居留外商を相手として座賣を爲すは時勢に後れたるものにして更に進で直貿易となり需要地に對する責任は內商自身直接に之を負ふに至りて始めて一段の進歩を見たる者を謂ふべきも是すら尙余輩の希望に合する者にあらず則ち日本の生絲業者は單に日本の生絲のみならず外國所產の生絲をも我勢力範圍の下に立たしむるに至らずんば充分と爲すを得ず、玆に少しく余輩の心を得たるは此一兩年來橫濱生絲合名會社に於て歐洲絲と支那絲とを其手に依つて米國へ輸送せる事にして此等は今日まで他に其類なきものなるべく、而して余輩は日本生絲事業家が奮て此の如くならんことを望む者にして斯くせずんば以て將來に日本生絲の名聲を保持し難しと信ず、然るに日本には隣國支那に生絲の大產出あり而も其國の蠶業幼稚にして常に敎を我に仰げり若し日本の生絲事業家にして一致發奮立つるに遠大の計を以てせば淸國の生絲事業を我手に收め譬へば瑞西の商人が他國の生絲を賣買して其の利を占得せるが如くならんと敢て空望にあらざるべし、生絲は世界的商業なり故に生絲事業家は世界的商人たらざる可らず日本が旣に指を外國交際に染めたる以上日本の生絲事業家も亦世界的行動を執るは至當の事たり、且つ世界を相手として日本品を賣らんとせば他國產の物をも賣らざる可らず各國の物貨を具備して始めて日本品の共に賣行くを見るべし是れ對歐米の事業を營める者の皆知る所にして新しく言ふを要せず、日本は生絲に於て特別の智識經驗を有せり日本が最も得意なる技能を根據として立

つは策の得たるものなるのみならず之に由りて需要地に於ける用途の如何を知り今日の如く消費者と生產者と全く相識らざるが如き奇態は自然に消滅するに至らん、而して之を爲すの途如何、余輩は全世界の生絲貿易權を日本商人の手に收めんと欲する者なるも其初は先づ支那よりせんとを順序と考ふ、支那が今日開發の運に向ひ居れるに乘じ日本生絲事業家は須く支那に行きて其養蠶製絲より漸次之を指導し其根據漸く鞏固なるを待ちて更に手を貿易權に伸べ、結局瑞西商人が爲しつゝある所を學ぶべし、思ふに其成功には多くの時日を要し多くの困難に逢ふべきも之に當るの士は豫め期する所あるべく、余輩は日本の生絲事業が永く今日の狀態に甘ず可らざるを知り之をして前途の名聲を保持せしむるの道は以上の所說に在りと認むるなり

支那開發と製絲業

支那開發は物質的に據らざる可らざると屢々之を言ひし所にして精神的よりして入るの不可なるも亦切言せし所なり而して支那に對する物質的開發の有効なるべきことは我日本が從來外國より輸入せし物質的敎訓は永遠に之を保存し精神的敎訓は之を留め置かざるに徵しても明なり本邦人が支那に臨むべき事業多々あるが中にも製絲業の如きは最も必要にして且つ有効なる者と謂ふべく我邦に在りても機

織の事は漢織吳織來朝以來星移り物變るも一歲として廢止せられしことなく九重の上に於かせられても專ら之を奬め給ふと如何に物質的文明が他國に入つて忘れられざるかを證して餘あり是れ恰も移して支那開發に用ふべきものにして今日支那に於ける養蠶製絲の方法は不規律亂雜を極め本邦當業者よりして之を見れば遙に幼稚の域に在るを以て本邦當業者が一面には開發事業として彼れを訓化するが爲め一面には當業者自身の事業範圍を擴充して利益圈を大にするが爲め手を支那內地の製絲業に展ぶるは頗る有利の事なり製絲界の名家速水堅曹氏は左の如く言へり

試に見よ、對岸の大陸には無限の桑葉あり製絲あり若し之を歐米人の爲に開發せられなば我邦の蠶絲業者は果して何の面目を以て世に對せんとはする、思ふに我が蕞爾たる國土如何に擴充に盡瘁すればとて生產力には限りあり其發達知るべきのみ則ち今後日本製絲業者の方針としては奮て支那大陸に向ふて勢力範圍の擴張を圖らざる可らず、但し此事は獨力を以て成し得べきにあらずして實力ある團躰の力に待たざるを得ず云々

其の見る所余輩の主張と符節を合するに似たり、余輩が常に言ふ如く支那は全世界の市場にして列國の着眼點となりつゝあり其狀恰も豐臣德川二氏の衡爭に於ける小牧山の如く能く支那に親近して開發の事業を遂げて扶掖誘導の道を擧げたるものは以て世界の優者たるを得べし、而して今や列國は役々

として支那の商工業界に侵入し地の最も近く事情の最も密なる我日本は却て袖手傍觀せり是れ自ら好みて世界の市場を他人の手に委する者にして遺憾の極なり製絲業の如きは國家の命脈と至大の關係あり本邦人の亦最も長所としつゝある所のものを以て支那開發の材料と爲すは道の宜しきを得たるものは是れすら爲し得ずんば本邦人は支那開發を爲すの資格なく同時に世界の生存競爭中に處して益々蕃殖し益々發達するの資格なき者と謂はざるを得ず、世態の進歩と共に衣服の料に絹を用ふるの風愈々加はり來るは我日本の生絲產額が明治二十年には百〇四萬餘貫目なりしもの近來に至りては二百二三十貫目を上下し明治二十年の輸出額が五萬六千餘梱なりしもの近來は十二三萬梱に上れるを見ても明白なり然るに斯業に精しき人の說にては我邦の養蠶業が此上如何に發達するとも四五萬梱を增出するに止まるべしと云へり隨て日本製絲家が將來の發達を希望せんとせば一層の擴充を計畫すべきは復た言ふを俟たず而して其擴充の方面は支那に在ると是亦明白なり、偶々速水氏の此說あるを想ひ余輩の所見を附記すと云ふ

支那養蠶と開發事業

其一

支那の養蠶業は創始の時代殆ど考ふべからず生産區域十餘省に亘り蠶絲の上海廣東兩港を經て輸出せらるゝもの凡二十萬個世界の蠶絲國中優に他國を凌ぐの趣あり然れども養蠶の方法幼稚にして我邦より之を見れば殆ど兒戯に同じ故に若し本邦人の手を以て之を改善し其繭を本邦に輸入し之より作れる生絲を輸出せば彼我の利益たる鮮少ならず、中部支那一帶の地は春時に於ける氣候の變化少きを以て我邦の如く飼育に困難を感ずるとなく桑樹の生育亦地味に合ひ勞銀低廉にして同國に於ける他の事業に比して一層經營の容易なるを見る、然るに彼邦養蠶家の作業方法總て守舊にして遷らず學理應用の如き固より之を知らず養蠶業に於て最も必要とする催青時期より一二齡の頃に亘り其取扱亂雜を極め餉桑多量に過ぎて保護を加ふると深からず唯だ三齡前後に至りて少しく注意を爲すのみ故に稚蠶の時に於て氣候の變化或は其他の故障あれば一端の疎漏より非常の不作を招くとあり況や微粒子病毒の如き彼等の眼中には殆ど之を置かざるの有樣にして精通者が視て以て危險なりと爲す所のもの彼等は雲煙過眼に附すると多しと云ふ、我邦の狀態より之を視れば惜むべきの極にして斯業に精通せる本邦人は僅に一葦帶水の西に此好地域あるを知る以上誰か進んで支那養蠶の改善に志さゞるものあるべき、又支那の養蠶は右の如く幼稚なるが故に繭層の厚薄より言へば我邦の蠶繭に及ばざるもの多しと雖も尚且つ氣候風土の我よりも佳なるが爲め其絲質若くば解舒の如き遙に我に優れるあり栽桑も亦た

培植法の備らざるに拘らず蓁々繁茂するを以て桑價頗る卑く蠶兒飼育上の利便最も多し、思ふに此等天與の利益饒に而も隣接せる蠶業先進國として我日本の在る有り日本の蠶業家は決して此の天惠を空うすべきにあらず是れ余輩が當業家に向ふて養蠶を以て支那を開發せんとを勸告する所以にして當業家の發憤之に當らんとを希望して已まざる所以なり、聞く所に據れば本年杭州の蠶學館に於ける日本式の養蠶は支那式の不結果に引換て非常の好成績を示せりと斯の如きは好個の實例にして支那養蠶家如何に守舊にして遷らざるを好むと雖も眼前此實蹟を見て曷ぞ彼我の間に得失あるを悟らざらん而して我が蠶業家亦大に爲すあるべきの機にあらすや、今や世界に於ける蠶絲の需要は今日の供給に甘ずる能はず然るに之が供給國たるものは支那日本伊太利佛蘭西の外地中海東部高加索附近等あるに過ず而も蠶絲の需要は年によりて多少の增減ありとするも終に是れ永久無限のものなる以上本邦人が世界第一の養蠶國たる支那內地に進み其飼養法を改善し產額を增し品質を改め天與の恩惠に乘じて世界の需要に應ぜんとを勉むるは邦人の發展力を加ふるの點に於て最も利益あり支那の土宜を增加改善するの點に於て最も彼れの利益を興し本邦人の一擧によりて東洋二大帝國の大利を致すの道を啓くものたるべし

其二

斯の如く論じ來るに及びて必ず逢着すべきは支那の養蠶を改善せば日本養蠶家に損害を與ふべしと云ふ反論なり此種の論者は曰く今日我邦の養蠶業は利益多きものにあらず故に支那の養蠶業にして進歩せば直接の損害を受くるは我養蠶家なり我邦の農家には蠶業を以て副業と爲せるもの少からざるに今ま支那の養蠶を改善して優良の繭を產出せしむれば我農家にして其の副業を奪はるゝ者多々なるべしと、是れ或は聽者を蠱惑し、得べきの說にして我邦の論客中此種の說を立つる者蓋し一二に止らず思ふに此種の說は支那米輸出解禁の反對論と同一性質にして何れも世に勢力あるものなるべしと雖も其趣意偏狹にして國家經濟上の一意見として見るに足らず、抑も余輩の唱導する支那開發は支那の利益を謀つて我邦の利益を忘れよと謂ふにあらず本邦人進んで支那內地の事業に手を下し或は經營補導し或は彼土に移住し彼を興すと共に我れ亦其利益に浴するに至らずんば已まざるの意なり曷ぞ自ら役し自ら勞し其結果を擧げて他人に附するの愚を敎ふるに在らん支那に於ける養蠶事業が今に至るも尙ほ十分の發達を爲さゞるは監督者として適當の人物を得ざるが爲めにして而も監督の任は支那國民の先天的我に及ばざる所なり蓋し支那國民は本邦人と其性質を異にし指導者の下に附屬して勞作をするに於ては能く勤勉に能く忠實なりと雖も彼等を指導者監督者の位置に立たしむれば其成績本邦人と同一なると能はず故に日本に於て養蠶時の一雇人なる者も支那に行きては監督者として能く其任を盡す

に足る、斯の如くにして本邦の當業者が卒先彼地に渡航して之が經營に當り學理と經驗とを應用して指導に勉めば其產額を倍增し及び繭質をして優良ならしめんこと期して待つべし斯くて我當業者の指導に據りて彼れの蠶業上著大の進境を認めば彼等は自ら我を德とし百事の經營我に賴りて爲すの風を養ひ得べく我が國民の地步は支那內地に遺憾なく行き亘りて事業共通の實を示すに至るや疑なし養蠶業は其性質よりして旣に鄕黨的の感化力を有すること他の事業より强ければ此方面より入るは最も安全にして成功亦確實なるべし

其三

啻に養蠶のみなちず製絲の方法に就て言ふも新式の機械を應用する工場とては上海附近に在るものゝみにて廣東地方の如き殆ど見るの價値あるにあらず故に我より進んで諸般の經營を試みば長月日を費さずして其面目を一新せん、彼の七里絲の如きに至りては全く我邦從前の提絲よりも粗製のものにして農家の子女が各自に繰製するに過ぎざれば此等も亦宜しく我より指導して先づ其器具及び繰製法を改むると共に束裝其他に改善を加へ一手に輸出の道を講ずると恰も我上州南部座繰或は福島折返絲の如き組織とせば品質をして一層優良ならしむるのみならず隨て著しく聲價を上ぼすを得べし斯の如くにして我蠶絲業者が支那蠶絲界の要部に入り之を指導すると共に我內地の蠶絲業者も奮つて品質の

改善を圖り、或は本邦人に改善せられて而も生産費の多きを要せざる支那繭を輸入し來り之を以て繰製する時は其勢殆ど全世界に覇たるべく纔に國家の保護に賴りて命脈を繋ぎ居れる佛國蠶業の如きは第一着に倒れて需要國と變ずるの外なく伊太利も到底現狀を維持すると能はず其他墺地利の如き土耳其の如き高加索の如き競爭に堪ふべくもあらず是に至り世界の蠶絲供給國としては唯だ日本支那あるのみ他は悉く消費地となるべく世界に於る生絲市場は日清兩國製産家の一顰一笑に依りて左右せらるゝとなるべきは些の疑を容れず而して生絲界の一大革命は爰に開展せられん

更に世界に於ける生絲需要の趨勢を言へば米國は機業の發達非常にして年々十二三萬個の生絲を吸收して尙其内地需要に對する三分の二を充たすに過ず殘餘の三分の一は羽二重其他の絹織物を輸入して纔に需むる所を充すのみ而も年一年に其需要を增加するの形勢なるが故に將來の需要地として最も有望なるものあり次に露國は近來漸次機業の發達を見るに至らんとし我生絲も既に多少の販路を開けるを以て尤然たる彼の大國に一朝需要の聲を增し來らば消費の數量測るべからざる者あり佛獨瑞の三國は既に機業地として名あり現在生絲を需要すると夥しく將來亦益々增加を見んと推して知るべく英國及其殖民地若くは墺伊其他の各國亦相競ふて需要の聲を增さん、要するに今日の有樣を以てせば生絲は他の普通毛織或は綿絲の各品類と同じく實用品として視らるゝに至らんと遠きにあらず隨て世界需

要界の趨勢は駸々として止まざるべし故に假令日清兩國の生産者が現在の産出額を數倍するも尙決して生産過多を訴るの恐あるとなけん、余輩が斯の如く唱ふる所以は世界の生絲需要が其趨勢を速進する以上之が供給地も亦生産力を增加せざる可らざるを知るが爲にして現今世界産出高の三分の一を有せる淸國の蠶絲界が其昏睡より覺めて飛躍を試みざる可らざるの大勢は刻々に迫りつゝあり若し本邦人が支那の養蠶業を開發せずんば歐洲人が之を爲し一切の利得を攫取すると共に我蠶絲界にも打擊を與へん斯の如きは到底耐へ得らるべき所にあらざれば寧ろ我より進んで支那蠶絲界の要部を占め日清兩國の蠶絲業を打つて一丸と爲し世界の需要に應ずるとせば其利益勝げて言ふべからざるものあるべし

其四

支那の養蠶事業を開發するは强制的に邦人の職分となれり邦人は必ず手を下して之を做遂げざる可らず、唯だ之が目的を達する迄の間には勿論少からざる困難あるべく彼の本邦農家の副産を奪ふと謂ふの說をして勢力を得せしむるとあるべしと雖も凡そ今日世界共通の經濟圈に參加する邦として自然の物貨輸出入を杜塞するが如きは到底爲し得べきにあらず唯だ支那の蠶繭を我に輸入するの一事が何故に本那の利益なるやを悟入する迄には多少の日子を要すべきも元來生産費の低廉なる原料を輸入し之

に加工して一種高價なる製品と爲すの利益なるは多言を費さずして明なると共に內國に於て比較的不廉の生產費を要し尙ほ時として損失を免れざるも必ず强ひて之を繼續せざる可からずと言ふが如きは世界共通の經濟圈に處するの道を知る者と謂ひ難し、故に余輩は言はんとす日本の養蠶家は今後其の方針を改めて東亞の養蠶家となり一葦帶水の彼岸廣袤無限の大養蠶場に出張して數百千年養成し來りたる學理的實驗的の手腕を揮ふべしと、是れ余輩が常に謂ふ所の物質的の支那開發に合ふ所以にして日支兩國間に開かるべき產業の共通は實に基礎を爰に置くものなり今日支那繭の日本に輸入せらるゝと年々少からずと雖も其が爲に日本農家が副產を奪はれたりとて愁訴せしとありや勿論絲價昂騰し繭價不廉の歲には外國繭の輸入なくんば我農家は非常(寧ろ法外)の利益を壟斷し得べきも斯の如きは世界共通の經濟圈に參加せる邦に在て軌道を逸したるの事例として觀るべく之を以て健康體の經濟事情と爲す可もあらず世界共通の經濟圈なるものは狹量に考ふるを許さず常に大勢の趨く所に順ふて平準に歸す故に一時壟斷的の利益を得て能事畢れりと爲すは世界共通の經濟圈內に居るの資格なき者なり、內地養蠶家にして永く內地に跼蹐して終るの心ならんには復た言ふの要なきも苟も大勢の趨く所に鑑み永き歲月間に大なる利益に浴せんとを思はゞ支那養蠶業に對して開發を試むるは最も此の目的を達するに近き者にあらずや、要するに日本は世界の蠶絲界を左右するの任務を有し又之に

向ふて自然的强制的に進行しつゝあり更に邦人が工場を支那內地に建て己れが手を以て支那の產業を改善し製絲を改善して世界の需要に應ずるが如きも勉めて執るべきの道たるを疑はず、余輩の所謂支那開發は本邦人が進んで支那國民と同じく利澤に浴するに至らずんば已まざるの趣意なり、支那國民は亂餘の疲弊癒へず只管產業の興隆を思ひつゝあり恰も好し日英訂盟の事ありて支那國民が我に賴り我に學ばんとするの心油然として勃興せるの秋余輩は我邦蠶業家が此勸告を納るべきを信じて疑はざるなり

支那蠶業の第一着手

我邦の蠶業團體として頗る勢力ある上州高山社々長町田菊次郎氏が蠶業に老練の聞えあるは世の知る處なるが左の一篇は氏が先年淸國に渡航の際實地見聞せし所に基きて記述せしものにて特に注目の値あるを信ず爰に附記す

淸國の蠶業は幼稚なり繰絲は不完全なり然れども江蘇浙江の二省は天賦の蠶業地なり地形廣濶にして寒溫度に適し桑樹蓊々として繁茂し養蠶上の難事とする大氣中の濕氣は蠶期に於て我が日本より少なきを以て無雜作なる飼育も能く良繭を結び飼育改善の如きは支那養蠶家の念頭に浮ひ來ると無きが如

し此の優好無比なる原繭を以て而も最劣等に數へらるゝ七里絲を製出し貴重すべき製産をして空しく不評の裡に沒せしむ憐むべきなり

清國の養蠶は單に農家の副業たるに過きず此時に方り日本人が巨額の資本と精巧なる技術とを輸入して一大改革を試みば世界の蠶絲權を掌中に把握する易々の業たるべし然れども事業の改善を圖るには先づ其容易なるものを撰ばざるべからず清人は自尊の性に富むがゆゑに他國人と合同するを好まず此性癖は彼等の事業改善を遲延せしめたる主因なり故に本邦人が渡清して經營すべき事業多々なりと雖も彼等との間に複雜なる關係を興さんとするは姑く望み難し然らば如何にせば可なるか、吾人の直に着手すべきものとしては彼の七里絲に多少の改善を加ふる方便として日本の坐繰器械を輸送し生絲の細大を一定する爲めデニール制を設け數ケ所の揚返場を設立して絲質品位を檢察し一定の等級を附することとし其優劣によりて買入法を實行し各所の檢査濟生絲を合同して市場に賣買するを最も可なりとす今日上州碓氷甘樂の方法を支那に移さんとするも斯の如き信用一方より成立せる組織にありては彼我の事情充分に疏通せざる間は其成功或は期し難かるべし群馬縣は明治五六年の頃生絲の改善を計り上毛繭絲改良會社を設けて坐繰製絲を戸々に奬勵し共同揚返場を各村に立てゝ一定の檢査の下に生絲を鑑別し原料に對する時價を以て購入せり而して同縣下は爰に製絲業の根柢を得て碓氷甘樂の創立を見るに至りしのみならず一般農家に於ても毎戸繰絲を爲し之に據て機業起り染色開け彼の屑繭をも併せて良絲と爲すを得しは正に此の開發の結果にして今日上州の各町に於て生絲絹織物が毎月數回の市日に賣買せられ金融界を圓滿ならしむると他地方の比にあらず此の如く原繭消費の途開くると同時に養蠶は一方に於て年々發達し全國に一頭地を拔くに至れり

故に支那蠶業開發の第一着歩としては先づ以上の制に近似せる武州秩父郡改伸社の組織を移して支那內地の有力家と結合し組合に從事する役員は重に彼國の人物を採用し目下四五十匁(一圓に付き)に賣買せらるゝ絲價を三十五六匁位に購入せば利益に敏なる彼等は爭ふて繰絲の改良に趣くべく多數の生絲は坐ながら荷造せられ海外の需用を充たすを得べし而して其歸する所生絲の權は本邦の手に落つるのみならず本邦人が利益を得ると共に支那の收入を多からしめ施ゐて養蠶の改良發達となり產額愈々高まりて海外機業の原料を充たさば他の蠶絲國は復た我と爭ふと能はざるに至るべき歟故に吾人は支那蠶業の開發を企つるに其最も入り易くして實行し得べき生絲の改良即ち揚返檢査購入の方便を採り後に養蠶飼育改良の途に着かんと欲するなり

第八編

民食の共通より觀たる支那開發

我日本土地狹く人口多く穀植足らずして民食外より仰ぐ故に商工業を奬勵して國力の振暢を謀るの急務たるは固より論なしと雖も商工業の發達なるものは由來不足なき民食の備ありて始めて其完全を見る、米國の殷富世界に冠たる所以は民食餘りありて各國に輸出し商工業の進歩亦之に稱へばなり若し米國にして單に商工業の發達のみならば其畏るべきもの決して今日の如くなるを得ず、英國が海軍を整備し洽ねく殖民地の警衛に任ずるは殖民地を以て原料品の蒐集場精製品の販賣先と爲すのみならず其生存上民食の供給地と爲すの要あるに由らずんばあらず、若し英國にして加拿陀、印度、濠太利を有せず米國と戰端を開きて他列國皆な中立を布告せば英國は終に饑餓に迫らん、英國が此用意に勉むるに至りしは蓋し短月日の事にあらず那翁一世の雄威に抗し屢〻酷虐を受けし以來百難を經て民食供給の道最も忽にすべからざるを悟りしこそ之が要素なれ思ふに日本亦之に鑑むるの要なきにあらず今ま陸海軍の勢力强大なりと言ふも之を支ふべき民食なくんば堅艦利砲を擁して國遂に飢へん是れ甚だ憂ふべきの事なるに拘らず戰時に對する民食の用意として世上の識者間に如何の論議あるやを聞く能はず、平時に於ても商工業を盛にするの基礎として民食の補充を爲すは最も必要にして結局此一事は戰時平時を通じて頃刻も忽諸に附するを得ず、余輩は是に於て邦人の力を以てせる支那開發の切要なるを知る、日清の間は海路近く航通數日を出ず必要の場合に臨みて巨量の糧食を舶載し來るに難からず、幸にも支那の穀類野菜魚介の如き大抵本邦と同じく數量亦我れに輸し來るに不足なし若し本邦人が支那開發に勉め彼我兩國の關係殆ど一國の如くならば供給の途に利ある幾何ぞや、固より之が爲に支那米輸出解禁の必要あるは言ふを俟たずと雖も是等は形式上の事のみ眞に民食相通じ一呼して齎すとを得べからしめ假令英國と其殖民地との關係に同じからずとも兩國の間一種和親の氣密にして危急患難則ち趨くの素あるを要す、物貨の出入は元と價格の如何に基き苟も利益ある處には物自ら集まるは經濟上の原則なりと雖も本邦の位置より謂へば交通最も繁くして品類の同じきものを產するの國を求めて供給國と爲さゞる可らず此點に於て支那は正に之に適當せるものにして假令有事の日にあらずとも我邦の民食年々不足を訴へつゝあるの今日之を支持するの計を爲すは誰か無用なりと爲さん、此道理より見るも亦支那開發の頗る勉むべきを知るべし

日支兩國の共通生活

我邦人口年々に增殖し土地狹く生活の困難漸く加はるに依り早く之に對するの計を建つるの必要あるを洵に明なり、之か爲に邦人進んで支那を開發し彼をして益を享けしむると共に我亦其利を圖るべしとの趣旨は既に論ぜし所、前節に續揭せし支那蠶業の改善は則ち之が一手段にして余輩は尙ほ本邦人が一葦帶水の彼岸と滋く相往來し日支兩國の間は共通生活の行はれんことを希望す支那の土地廣く事業多きは優に幾千百萬の本邦人を包容して餘あり加ふるに火山脈上に立てる我邦の地形は頗る天災を受け易く地震海嘯風水噴火の禍頻々として其大なるもの亦二三十年に必ず一回來襲す之を彼の支那が災厄尠なく偶々黃河楊子江の氾濫あるも其河幅の大にして水の深きが爲に急に暴漲せず民生を害するの甚しからざるに比して雲泥の相違あるを見る則ち邦人は本國の危險多く常に爆藥函上に坐するの思あるを以てして尙蓬萊の神山なりと自負し渥からざるの生計を營むに孜々せざる可らざるの理由ありや、前に言へる如く本邦人は支那國民を開發するの天職を有す此天職は此危險多き本國と彼の危險少なき隣土とをして共通せしむるに依つて最も能く做遂けらる、而して其共通の主眼は彼我の人物民食土地の相共通するに在り喩は內地に於て養蠶業に精しき者多く而も之を以て衣食の道を營み難しとせば去て支那に之きて敎師たるべく、本土に凶歉の憂多く一風一水直に收穫の幾割に影響するとあらば支那の米穀を輸入して以て民食を補ふべく、內地に耕すべきの土地少なく偶々之あるも磽确にして收利の

望なしとせば更に幼稚なる支那の農業界に參加して未發の收穫を謀るべし要するに日本支那國相異なり鴻溝の其間を劃するあるも本邦人の力を以て兩國を一丸と爲し兩國々民相來往して生活を營むに至らずんば已む可らず今や我邦は爲すべきの事多く國民之に伴はず商工立國を以て主義とし農業に偏倚すべきの秋にあらざるは識者を待て後に知らず國民の材力を伸ばし民食を豐にして前途の發達を謀るは最も要急の務なり、英國は多數の植民地を有し之を衞るに强大の武力を蓄ふと雖も之が直接の報酬として租稅を本國に納附する者殆どなく他は皆本國の費を銷耗して英國々民の發展場に當るのみ而も國家の必要に臨みては之れ亦避くるを得ず然るに日本が支那を開發するは固より統治權の異る處我に於て何の經費を要するにあらず加之其土地廣く生活易く國を擧つて我の指導を待つ、若し邦人にして斯ても尙ほ本土に戀々して窮迫に泣かんことを好まば復た告ぐるの辭なし苟も今後の世運に處し一は國家の天職を做遂げ一は國家發展の力を助けんことを欲せば奚んぞ活躍一番余輩の勸むる所に出でざる可けん、國家は大基礎の上に立たずんば大發達を爲す能はず而して大基礎は國民の眼前に在り此に地步を占めて前途の發達を圖る亦國民の務にあらずや

第九編

世界の大勢より觀たる支那開發の必要

海牙の萬國平和會議不得要領の結果を觀しより世界の兵備膨脹熱は舊に依つて其高度を保ちつゝあり特に兵器戰術の發明日に益す斬新を加ふるが爲め今の最も良しとするものゝ明年は忽ち陳腐に屬し明年の最も鋭利とするものも翌年は復た用ふ可らざるに至る斯の如くにして世界の各國は其兵備の爲に疲勞を來たせり若し平和會議の如きものにして眞に効果を擧ぐるを得、各國の兵備をして全然廢絶に至らしめざるも或る定限を置いて之に從ふを得せしむれば世界の民生を救ひ生產の力を增大するに於て功績幾何ぞや而も今日の狀態に在りては此事驟に望む可らざるを悟らば次に講究すべきは如何にして武力を減殺せず又民生の力を疲らしめざるべきかに在り、武力は年々に加增を要すると共に從來蓄へたりしものを補充して無用ならしめざるを謀るの必要あり故に兵益々強くして民生益々疲勞し陸海の兵備其極端迄膨脹せらるゝと同時に民生は玆に饑餓凍餒せん今日の狀態を以て進まば結局は斯の如くならんとす、加之一國が他國に對する其利害の關係上敵手の數を知らざる可らず或は二國或は三國一旦不祥の起るあらば一國にして二國と戰ふとあり三國に敵するとあり偶々日英同盟の如きありて國威を加ふるとなきにあらざるも我邦が他の一國と戰ふ時は其國如何に强大なりとも英國の武力は我に添加せられず若英國の民論に變化を來し今の日英同盟を以て國家に不利なりとするに至らば所謂五ヶ年の締約亦如何なる經過を示さんも測り難し是に於て我が賴むべき者は米か獨か、米は我邦と親善なりと言ふも近來の政策は帝國主義の喜ばるゝを見ては其壯腹果して如何、獨は東洋に商業的利害を有すると淺からざるも他の二三强國に敵して迄も我と密結するの決心ありや、一々數へ來れば世界の大勢が明示する所に照し我能く威力を保持し兼て民生を害せざるの道を得んこと頗る難きに苦む、然るに唯だ一法あり隣國支那は今まで双手を開ゐて外氣を迎へつゝあり固陋の風全く脫却せずと雖も有力者中に革進の志ある瞭々として睹るべく歐米日本に學生を派し又其文物を移入する洵に孜々として休まざるの概あり而も其地理の關係古來の情誼來往派遣に多費を要せざるの點よりして彼が日本に親むの情は他の歐米に對するよりも深厚なるを疑ず若我にして彼を開發啓導するに其道を愆らずんば支那の天下は總て我敎鞭の下に立たん、農事には我より敎師を迎へ商業には我より顧問を招き軍事には我より武官を雇ひ工藝技術には我より技師を聘し學事政事其の他萬般の事に至るまで能く我の敎ふる所に就かん、斯の如くんば日本は敎師の居室にして支那は正に是れ一個の大敎場たるべし敎師室を出づると一二歩にして無數の學生は懽然我を迎へて敎を乞ふ日本支

第九編　世界の大勢より觀たる支那開發の必要

那其統治の異るに拘らす同じく是れ一校舍の如く一紙の契約なくして強力なる同盟(寧ろ同化)を形成し東洋の治安は東洋自ら之に當り日支兩國は其精神に於て密結し共通の武力を備へ共通の生産力を以て保障し得べし則ち兩國間に於ける兵備の聯成結社を成す者にして其補充費の低廉なるに反し武力は却て優勢なるものあらん抑も兵は多きを欲せず唯だ精鋭にして運用機敏なるを尚ぶ、曩世凱氏麾下の兵十萬之を敎ふるに本邦人の手を以てせば我は無費の新兵十萬を加へたるに同じく兩國の平和之を保障するに殆ど一國の費を出でず復世界の競爭場裏に立つを苦むとなし是に至るには開發啓導の一事最も勉めざる可らず、而も日本の生存問題として盡瘁するの必要あるなり

附錄

亞細亞銀行設立の議

清國の開發は余輩の持論なり、支那素と亞細亞の一帝國なりと云ふも實は世界の一大陸にして、其領域は寒熱の兩帶に跨り沃野千里穰々際りなく無限の富源は未掘の山岳に埋もれ、一葦帶水工業國としての日本に取て他に求むべからざる原料供給地たるに負かず、加るに四億餘萬の民衆は其數より云ふ

も其富より云ふも且つ嗜好の程度より云ふも實に我工業製作品の至要なる華客にして絶大なる需用者なり、此の廣大なる富土を開發せんか、至るところに無量の原料品を穫べく斯の有利なる市場に販路を開拓せんか悉く我製品を吸收するに足るなり、然らば則ち我國が將來商工業立國の方針を秉て世界に處し國利民福を增進するが爲めには深く清國に結ぶところ莫かるべからず蓋し我國に於ける工業の隆盛と人口の增殖とに伴ふ食料品の缺乏は到底清國及韓國の供給に依賴せざるを得ざるを以て也。

英國の清國に於けるや其利益關係の更に之より深き者有り彼れは夙に支那帝國内の諸河川を開放せしめ楊子江流域の商利は概ね之を壟斷し稅關管理の權を掌握し雲南鐵道の敷設權を得、曩には香港を奪ふて商業の中心と爲し近くは威海衛を得、秦皇島を得て其經營に怠らず四億の清國外債を引受け其政治上經濟上の地盤牢として拔くべからざるに拘はらず今尚ほ支那貿易の大半を擧げて其掌中に收めつゝ有り。

日英兩國が此の大平洋岸の大陸に於て其利益關係の密接なると斯の如し凡そ人の情利害相通じて始めて濃かに人の交りも亦之に由て深し國交際の事又之に異ならず東洋に於る日英の利害は多くの點に於て相一致せるを以て日英の提携は從來不文の裡に成立し或は支那の保全に或は朝鮮の保護に其他苟くも東洋問題の解決に對しては大躰に於て終始其行動を一にせるとは世間何人も疑はざる所日英協約は

極東に於ける現狀及全局の平和を維持し以て列國商工業の利益を保護する上に成立したるものにして則ち清韓兩國の獨立と領土保全とを維持すること及び該二國に於ける各國の商工業をして均一の機會を得せしむることに關し利害關係の相深き日英兩國が將來協同提携して事に當らんとするに外ならず東洋に於ける利害の關係は列國悉く之れなきものなしと雖も其の地位より將た歷史より就中最大の利害を有すると共に至大の勢力を有するものは日英兩國を推さゞるを得ず、此の二大勢力の提携が亞細亞全局の重鎭として第三國の野心を抑へ永遠に東洋の平和を確保し各國の商工業をして平穩圓熟なる發達を爲さしむるに足るべきは毫も疑を容れざるところ我が帝國の外交が孤立退嬰主義相棄てゝ一變して宇內の最大勢力國と步趨を共にして進取の態度に出でたることは東亞問題の解決と清國開發の道程に於て好個の侶伴を得たりと謂ふべし、余輩此點に於て大に政府の功を偉とし當局者の勞を多とすると共に更に一事の希望に堪へざるものあり則ち協約の實を示して永久に之を確保する手段方法を講ずること是なり、思ふに手段方法たる素より種々あるべしと雖も就中有効なるものは日清英三國共同の事業を起し相互の利益を共通せしむるに若くは莫し後帝國が亞細亞全局の平和を保持する上に於て清國に對する政治的關係の重大なるは言ふまでもなけれど而かも平生に在て相互に利するところは唯通商の道に由るの外なく英國と雖も亦然らずんばあらず其の政治的に清韓兩國を保全するの急なるが

如く又經濟上の利益より支那を保全するの急務なるを知らざる可からず、語を換て之を言ば日清英三國の經濟的聯絡は刻下の急務にして彼をも利して我をも益し彼我の經濟をして密着ならしむるとは協約の實を示すの尤も明なる者と謂べし由來英國人は資本に富むも而も放下の途に苦み清國人は自然の富を有するも而も之を開拓するの力なく本邦人は事業を經營する能力に乏しからざるも之を施すに所なし此を以て三者合同して一大銀行を組織し其潤澤なる資本を以て清國の富源を開發し其絕大なる信用を以て金融の聯絡を容易ならしめば日清英貿易の發達に貢獻するところ頗る顯著なるべきは炳然として章かなるのみならず日英協約を實にするに於て正に第一の急務ならずんばあらず之を要するに日英協約は東亞の平和を永遠に維持し列國商工業の發達を均等に保護せんが爲め眞摯兩國相互の同情同利害に出てたるものにして東亞の時局に關して適當なるは勿論清韓日英の爲め將た列國の平和の爲め洵に賀せざる可らずと雖も苟くも協約の精神を貫徹して其をして空文に歸せしめざらんには須らく日英清の經濟的聯絡を計り利益を共通せしめて以て永遠の確保を期せざる可らず日英清協同の亞細亞銀行を興すが如き豈に急務中の急務にあらずや

再び亞細亞銀行の設立に就て

日英清三國が協同して亞細亞銀行を設立することは日英協約の實を明にし兼て清國の開發と貿易の發展とに資する道として最も急要なるは之を論じたり然らば亞細亞銀行なるものは果して如何なる組織と如何なる目的及方針とを以て成立すべきか茲に重ねて論究せんとす

惟ふに清國を啓發し誘掖するの途は種々あるべしと雖も其内政の改善と通商の發達より論ずるときは先づ其國家財政の運活を整理し其紊亂せる貨幣制度を統一するより急なるは莫し從來清國の税法たる多くは昔時政府の定めたる豫算に據りて戸部之れを監檢し其豫定の歳入を得るを限度と爲し民間に官職を與へて租税の賦課徴收を爲さしめ以て中央政府の財源を受負はしめたり是れ受負人たる地方官の手に租税の止まる多き所以にして夫の布政使の如き税務監督官の設なきに非ずと雖も賄賂公行の甚しき積年の通弊を爲して遂に今日の如き國家財政の紊亂を見るに至りたり故に若し余輩の主張する亞細亞銀行なるものをして清國の中央銀行たらしめ政府の機關銀行たらしむることを得ば地方財政の監督に於て將た中央政府財政の整理に於て顯著なる効果を奏すべきは疑を容れず、假に其範圍を小にし一道臺若くは一省の財政だも整理することを得ば優に清國内政革進の大幇助と成り他日の根本的財政策

の準備を爲すや毫も疑を容れず果して然らば亞細亞銀行をして中央政府の機關銀行たらしむることは清國今日の事情に於て最も適切なりと云ふべし。

方今世界の貨幣制度中清國の如く不秩序にして紊亂せるは恐らく他に比類なかるべし、即ち清國には眞正なる本位貨幣莫しと云ふも過言に非るべく夫の兩(テール)と稱するものも實は本位貨を代表する銀塊に過ぎずして馬蹄銀あり廣東兩あり曹平兩あり海關兩あり墨西銀あり其重量純分共に區々雜多にして到底敏活に交換の媒介をなす能はず、而して紙幣に至ても香港上海銀行査打銀行中國通商銀行より發行せる各種の兩紙幣墨銀紙幣あり露清銀行の發行せる庫平兩紙幣あり各錢莊の發行せる番票あり て其混雜實に名狀す可らず畢竟貨幣に就ては清國は全く無政府の有樣にして之が爲め既往並に現在通商貿易の發達を阻碍せること眞に多大なり若し亞細亞銀行にして清國の中央銀行となり紙幣發行の權を掌握するを得ば現時の紊亂せる幣制を統一すること必ずしも難事に非ざるべし果して然らば亞細亞銀行の設立は彼我共に通商貿易の發達上一日も怠る可からざる施設たり、特に我國は對清貿易上未だ完全なる金融機關を有せざるを以て從來銀價の高低其他の原因に由りて對清爲替は往々片爲替と成り我輸出貿易の發達に障礙を與へたること少しとせず、今若し亞細亞銀行を設立して倫敦に支店を置き彼我爲替の趨勢に應じて適當の施設を爲さしむるときは決して片爲替の弊なかるべく其の兩國貿易の

附錄　再び亞細亞銀行の設立に就て

發達に貢献するや甚だ多大なるべし。更に清國人民の側より見るも亞細亞銀行の設立は彼等の隨喜するところなるべし、試みに清國に行て其國情を視察し來れ、四億餘萬の蒼生は支那官吏の苛酷に堪へず兵士の掠奪に恐れて其財貨を深く土中に藏し爲めに巨額の資金は空しく死藏せられて利殖の途を得ざるは事實の爭はれ難きところ也若し亞細亞銀行にして彼等の貨財に安固なる保護を與へ且つ利殖を得るの便益を得せしむるが爲めに設立せられ又た彼等清國人民にして其資金を亞細亞銀行に托することの完全にして且つ利益なるを悟らば鉅額の資金は滔々として銀行の庫中に流入せん、乃ち亞細亞銀行が融通し得る資金は極めて潤澤なること疑を容れず、或は云はん、亞細亞銀行にして果して斯の如き鉅額なる資金を吸收するを得んか遂に放資の途に窮するなきを得んやと、この言一應の理あるが如しと雖も事實は全く之に反せり、清國の富源は無盡藏にして過去並に現在歐米諸國が資本を支那に放下せるもの幾億を以て數ふべく尙ほ將來に於ても鐵道に鑛山に河川に港灣に殖産に資本を放下すべき範圍は頗ぶる絶大なり、若し一個人又は會社の企業に放資するを危險なりとせば宜しく清國政府に貸附け政府をして直接に官業として諸種の事業を營ましむべく或は政府を通して民業に資本を放下すべきのみ、何れの場合を問はず亞細亞銀行は債權者として債務者たる政府若くは私人會社の事業經營に容喙すべきは勿論の事とす、思ふに此方針を以て進まば資金放下の途決して少からざるべく之に由て

以て清國の開發は意外の成功を見るに至らん、假りに清國に於ける資金の需用を充たして餘ありとせば須らく韓國及日本內地の事業に放下すべきのみ、畢竟するに資金放下の途に窮するが如きことの斷じて之れなきは余輩の信じて疑はざる所也。

斯の如き目的と斯の如き方針とを以て成立すべき亞細亞銀行は其本論鉅額なるを必要とす且つ事業の前途を確むる爲めには三國の出資は成べく衡平を保たざる可らず或は曰はん我國財界の現狀は到底斯かる巨額の資本を供給する能はずと、世間亦之を信ずるもの多し、請ふ余輩をして暫らく其妄を辯ぜしめよ。

亞細亞銀行設立の如き國際的且つ國家的の事業に對し政府は素より保護と奬勵を盡さざる可からず余輩をして遠慮なく云はしむれば清國より受取るべき償金は大に之を亞細亞銀行の資本に供すべし是れ我自ら利し且つ清國に對して善隣の途を盡し同時に英國に對し深交相離るべからざる關係を結ぶ所以なり今や米國に於て償金を清國に還附すべしとの議ありと聞く、回顧すれば往年馬關砲擊の事あるや我國より米國に拂ひたる六十萬の賠償金は米國の好意に依りて我國に返還し來り政府は擧げて之を橫濱港初期の築港費に投じ以て橫濱港今日の繁榮の基礎を爲したり吾人恒に米國の德を偉とするもの今日此說を爲す豈偶然ならんや、更に之を云ふに畏多けれども曾て　皇室に献上したる償金の一部を以

附錄　再び亞細亞銀行の設立に就て

て　皇室が亞細亞銀行の株を所有せらるゝことを得ば事業永遠の鞏固を來すべきは勿論善隣の厚さ何物か之に若かんや。

余輩の主張する亞細亞銀行なるものは日英清三國の資本を合同して清國政府の機關銀行たらしめ清國の財政を整理し貨幣制度を統一し且つ清國內地の開發と三國通商の發達とに資し以て經濟的利益を深く且つ永遠に共通せしめ之に由て以て日英協約の實を擧げんとするに外ならず、凡そ外交上協商と云ひ協約と稱するも其間に利害の離る可からざるもの存するに非ずんば空文に過ぎず、露國の佛國に於ける關係を見よ、其同盟は屢々破れんとして尙ほ結び往々離れんとして又た合し綿々絶えざる所以のものは露國が債務者として佛國が債權者として經濟上離るべからざる關係を有するを以て也、即ち經濟上の關係が外交上に及ぼす影響の大なるは智者を待たずして知る可し、余輩が刻下に於て亞細亞銀行設立の急要を唱ふる所以のものは經濟上利益の共通に依りて以て日英協約の實を明にし三國の交情をして益々親密ならしめ極東永遠の平和と各國商工業均一の發達を爲さしめんとするに外ならず。

支那啓發論　終

明治參拾六年二月三日印刷
明治參拾六年二月七日發行

著作兼發行者　横濱市西戸部町十一番地　佐藤虎次郎

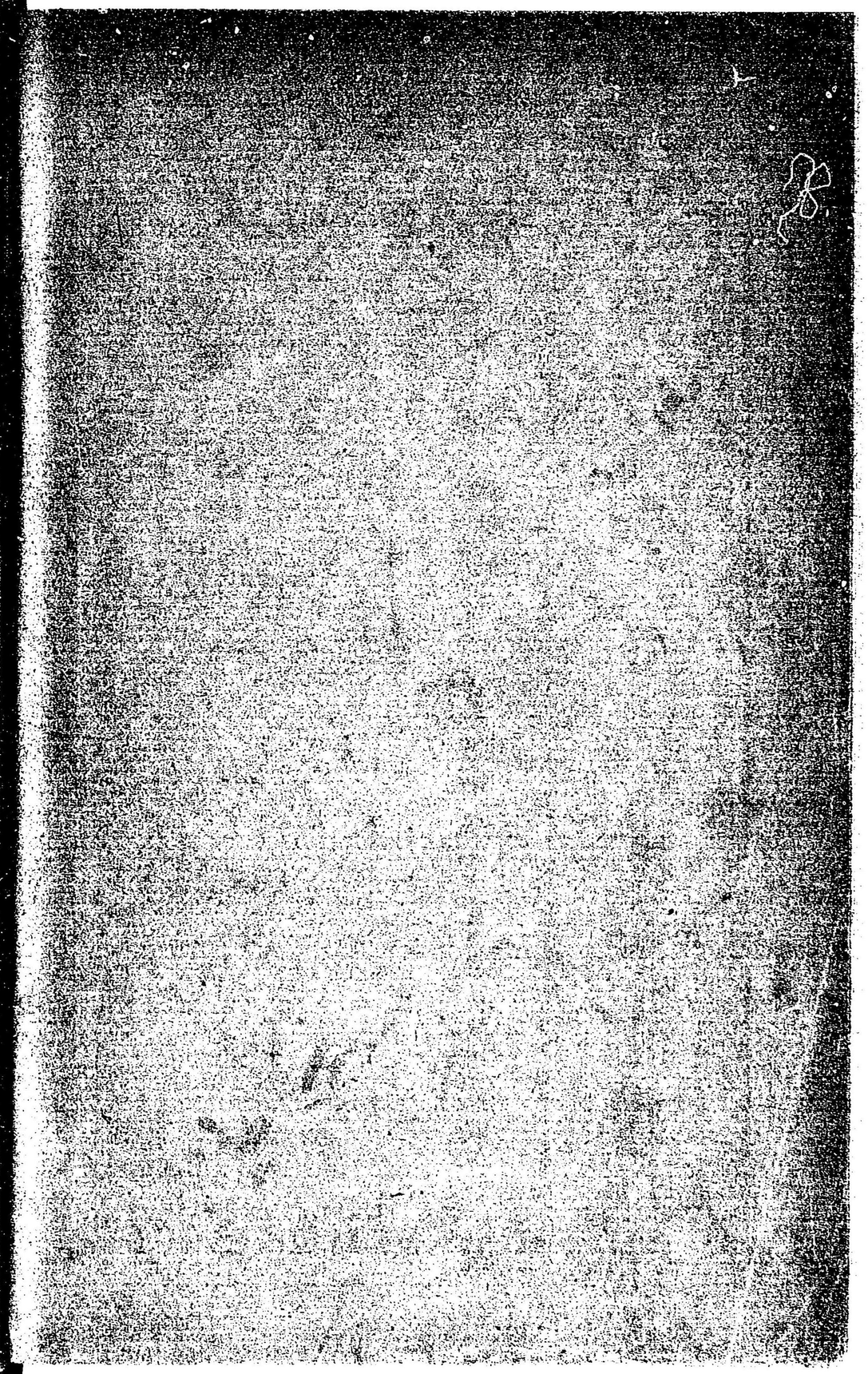
發行所　横濱市本町六丁目八十六番地　横濱新報社

印刷者　東京市京橋區西紺屋町二十六七番地　石川金太郎

印刷所　東京市京橋區西紺屋町二十六七番地　株式會社秀英舍

不許複製

CL
NO. 25161



601.222
Sa913s

041886-000-3

601.222-Sa913s

支那啓発論

佐藤　虎次郎／著

M36

BDI-0522